

令和7年度

# 教育計画

(シラバス)



三重県農業大学校

〒515-2316

三重県松阪市嬉野川北町530

電話：0598-42-1260



## 目 次

1	教育方針	1
2	教育目標	1
3	教育方法	1
(1)	教育計画	1
ア	二年課程	1
イ	一年課程	1
(2)	教育内容	1
ア	基礎学習	1
イ	専攻学習	1
ウ	派遣学習（農家実習）	1
エ	総括学習	1
(3)	組織及び指導体制	2
(4)	教育計画	3
ア	全体計画	3
(ア)	年間教育計画	3
(イ)	教育時間数及び単位	5
(ウ)	資格免許の取得	9
(エ)	海外等農業先進地研修	9
(オ)	学習時間	10
イ	教科の内容	11
(ア)	教科の内容の見方	11
(イ)	教養科目	12
(ウ)	専門科目：必須	21
(エ)	専門科目：選択	40
a	選択A	40
b	選択B	47
(オ)	専攻科目	57
a	共通	57
b	水田作コース	63
c	茶業コース	70
d	野菜コース	74
e	花きコース	78
f	果樹コース	84
g	畜産コース	88
ウ	令和7年度カリキュラム	95
エ	実践ほ場栽培計画・ほ場配置図	100
オ	成績評価等	114
4	皇學館大学カリキュラム	117



### 1 教育方針

本県農業及び農村地域の中核的な担い手として、広い視野から判断し、行動できる経営感覚に優れた人材を養成するため、次の目標のもとに実践的な教育を行う。

### 2 教育目標

教育方針に基づき、次の諸点に重点を置いて教育を行う。

- (1) 農業技術の高度化及び経営の革新に対応できる技術能力、経営判断力等を養成する。
- (2) 自己の確立と協調性に富む人材を養成する。
- (3) 明日の農業を拓く、創造力、実践力豊かな人材を養成する。

### 3 教育方法

#### (1) 教育計画

##### ア 二年課程

		基礎学習 [教養科目・専門科目]				夏季 休校	基礎学習 [教養科目・専門科目]	専攻学習 [専門科目・専攻科目]	冬季 休校	専攻学習 [専門科目・専攻科目]			春季 休校
1学年	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
		専攻学習 [専門科目・専攻科目]			派遣学習 [農家実習]	専攻学習 [専門科目・専攻科目]	夏季 休校	専攻学習 [専門科目・専攻科目]	派遣学習 [農家実習]	海外 研修	総括学習 [専門科目] [卒業論文作成]	冬季 休校	総括学習 [専門科目] [卒業論文作成]
		専攻学習 [専門科目・専攻科目]			派遣学習 [農家実習]	専攻学習 [専門科目・専攻科目]	夏季 休校	専攻学習 [専門科目・専攻科目]	派遣学習 [農家実習]	海外 研修	総括学習 [専門科目] [卒業論文作成]	冬季 休校	総括学習 [専門科目] [卒業論文作成]

派遣学習  
[農家実習]

専攻学習  
[専門科目・専攻科目]

##### イ 一年課程

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	専攻学習 [専門科目・専攻科目]		派遣学習 [農家実習]	専攻学習 [専門科目・専攻科目]	夏季 休校	専攻学習 [専門科目・専攻科目]	派遣学習 [農家実習]	専攻学習 [専門科目・専攻科目]	冬季 休校	専攻学習 [専門科目・専攻科目]		

#### (2) 教育内容

##### ア 基礎学習（二年課程）

教養科目及び農業共通専門科目の履修に重点をおくとともに、基本的な農作業技術を習得する。

##### イ 専攻学習

専攻別専門科目を履修するとともに、実践を通じて専門的な知識及び技術を習得する。

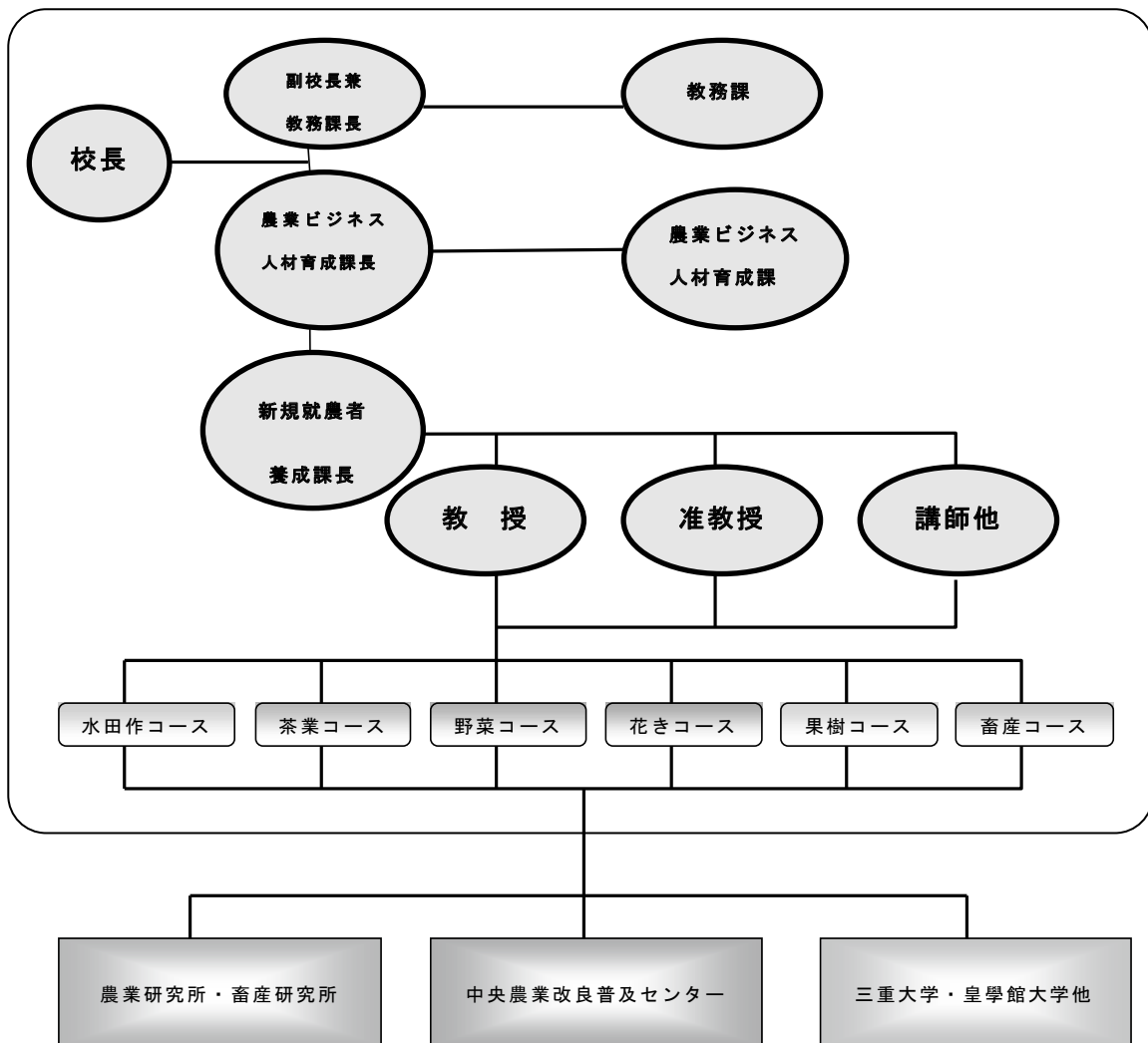
##### ウ 派遣学習（農家実習）

指導農業士を中心とした先進農家における農家実習をとおして、農業技術、経営能力、社会性等について習得させる。

##### エ 総括学習（二年課程）

2年間の学習の総括として、地域農業や農業経営等について客観的に把握、分析し、これまでの成果として、将来の営農設計等を卒業論文として作成する。

(3) 組織及び指導体制



(4) 教育計画  
ア 全体計画  
(ア) 年間教育計画

課程	学年	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
二年課程	第1学年	学習内容	← 教養科目、専門科目講義 ← 専攻実習	→ 教養科目、専門科目講義 → 専攻実習	→ 教養科目、専門科目講義 → 専攻実習	→ 教養科目、専門科目講義 → 専攻実習	→ 教養科目、専門科目講義 → 専攻実習	→ 教養科目、専門科目講義 → 専攻実習	→ 教養科目、専門科目講義 → 専攻実習	→ 教養科目、専門科目講義 → 専攻実習	→ 教養科目、専門科目講義 → 専攻実習	→ 教養科目、専門科目講義 → 専攻実習	→ 教養科目、専門科目講義 → 専攻実習	→ 教養科目、専門科目講義 → 専攻実習	
		主要行事	○入校式	○東・近ブロック学生スポーツ大会								○農大祭		○学生意見発表会 (東海近畿/全国)(1月中旬/2月中旬) ○終業式	
	免許資格試験	○フォークリフト運転技能(4月～) ○大特(農耕用)(5月～) ○けん引(農耕用)(6月～)	○危険物取扱者(6月、11月) ○毒物劇物取扱者(8月上旬) ○玉掛け(8月～) ○アーケ溶接(9月～)							○農業簿記(11月) ○ガス溶接(11月～)					
	学習内容	← 専門・専攻科目講義 ← 専攻実習	→ 専門・専攻科目講義 → 専攻実習	→ 専門・専攻科目講義 → 専攻実習	→ 専門・専攻科目講義 → 専攻実習	→ 専門・専攻科目講義 → 専攻実習	→ 専門・専攻科目講義 → 専攻実習	→ 専門・専攻科目講義 → 専攻実習	→ 専門・専攻科目講義 → 専攻実習	→ 専門・専攻科目講義 → 専攻実習	→ 専門・専攻科目講義 → 専攻実習	→ 専門・専攻科目講義 → 専攻実習	→ 専門・専攻科目講義 → 専攻実習	→ 専門・専攻科目講義 → 専攻実習	→ 専門・専攻科目講義 → 専攻実習
第2学年	主要行事	○始業式	○東・近ブロック学生スポーツ大会						○プロジェクト発表会		○農大祭		○学生研究発表会 (東海近畿/全国)(1月中旬/2月中旬) ○卒業式 ○卒業論文発表会		
	免許資格試験	○フォークリフト運転技能(4月～) ○大特(農耕用)(5月～) ○けん引(農耕用)(6月～)	○玉掛け(5月～) ○ガス・アーケ溶接(6月～) ○フォークリフト運転技能(4月～) ○大特(農耕用)(5月～) ○けん引(農耕用)(6月～)							○海外等視察研修					

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学習内容	<p>← 前期農家実習 →</p> <p>← 後期農家実習 →</p> <p>← 専門・専攻科目講義 →</p> <p>← 専門・専攻科目講義 →</p> <p>← 専攻実習 →</p> <p>← 専攻実習 →</p>	<p>← 前期農家実習 →</p> <p>← 専門・専攻科目講義 →</p> <p>← 専攻実習 →</p>	<p>← 前期農家実習 →</p> <p>← 専門・専攻科目講義 →</p> <p>← 専攻実習 →</p>	<p>← 前期農家実習 →</p> <p>← 専門・専攻科目講義 →</p> <p>← 専攻実習 →</p>	<p>← 前期農家実習 →</p> <p>← 専門・専攻科目講義 →</p> <p>← 専攻実習 →</p>	<p>← 前期農家実習 →</p> <p>← 専門・専攻科目講義 →</p> <p>← 専攻実習 →</p>	<p>← 前期農家実習 →</p> <p>← 専門・専攻科目講義 →</p> <p>← 専攻実習 →</p>	<p>← 前期農家実習 →</p> <p>← 専門・専攻科目講義 →</p> <p>← 専攻実習 →</p>	<p>← 前期農家実習 →</p> <p>← 専門・専攻科目講義 →</p> <p>← 専攻実習 →</p>	<p>← 前期農家実習 →</p> <p>← 専門・専攻科目講義 →</p> <p>← 専攻実習 →</p>	<p>← 前期農家実習 →</p> <p>← 専門・専攻科目講義 →</p> <p>← 専攻実習 →</p>	<p>← 前期農家実習 →</p> <p>← 専門・専攻科目講義 →</p> <p>← 専攻実習 →</p>	<p>← 前期農家実習 →</p> <p>← 専門・専攻科目講義 →</p> <p>← 専攻実習 →</p>
主要行事	<p>○入校式</p>								○農大祭		○プロジェクト発表会	○修了式	
免許資格試験	<p>○フォークリフト運転技能(4月～)</p> <p>○大特(農耕用)(5月～)</p>	<p>○危険物取扱者(6月、11月)</p>	<p>○毒物劇物取扱者(8月上旬)</p> <p>○玉掛け(8月～)</p> <p>○アーケ溶接(9月～)</p>					○農業簿記(11月) <p>○ガス溶接(11月～)</p>					

## (イ) 教育時間数及び単位

## 【養成科二年課程】

区 分		科 目	時 間 数			単位数	
			1学年	2学年	合 計		
共通科目	教養科目	必須科目	キャリアデザイン	16		16	1
			くらしと法律	16		16	1
			くらしと経済	16		16	1
			統計学	16		16	1
			情報処 理	16		16	1
			英語（実用英会話）		32	32	2
			現代社会と文化	32		32	2
			農業基礎	32		32	2
			体育	16	16	32	2
	小計	160	48	208	13		
	専門科目	必須科目	農業経営		32	32	2
			農業簿記	32		32	2
			農業政策	16		16	1
			農業生産工程管理	16		16	1
			農産物マーケティング		16	16	1
			作物概論	16		16	1
			園芸概論	32		32	2
			畜産概論	16		16	1
			植物生理	32		32	2
			植物育種		16	16	1
環境保全と農業			16		16	1	
作物保護	32		32	2			
土壌肥料	32		32	2			
農業情勢		16	16	1			
農業気象学		16	16	1			
農業機械論	16		16	1			
スマート農業概論	16		16	1			
6次産業化		16	16	1			
海外等農業先進地研修		16	16	1			
小計	272	128	400	25			

区 分		科 目	時 間 数			単位数	
			1学年	2学年	合 計		
共通科目	専門科目	選択科目A	(3科目を選択) 有機農業と福祉 農産加工 土壌診断 コンピュータ演習 クラウドサービス 農業機械・施設整備			48	3
		小計		32	16	48	3
	選択科目B	(2科目を選択) 大特(農耕用) けん引(農耕用) フォークリフト運転技能 毒物・劇物 危険物 簿記(ガス、アーク) 溶接(ガス、アーク) 玉掛け技能 GAP指導			32	2	
	小計		16	16	32	2	
専攻科目	水田作コース	必須科目	稲作技術	48		48	3
			小麦作技術	16		16	1
			大豆作技術	16		16	1
			多様な水田作物の低コスト技術		16	16	1
			水田農業の物流		32	32	2
			農産物の流通		16	16	1
			農村社会		16	16	1
			専攻地実習	720	304	1,024	32
			専攻地実習	16	16	32	1
			専攻地実習	32	224	256	8
	課題解決演習		32	32	1		
	卒業論文		48	48	3		
	小計		848	864	1,712	65	
	茶業コース	必須科目	茶栽培各論Ⅰ	48		48	3
茶栽培各論Ⅱ				48	48	3	
茶利用加工各論Ⅰ				32	32	2	
茶利用加工各論Ⅱ				32	32	2	
専攻地実習			720	304	1,024	32	
専攻地実習			16	16	32	1	
専攻地実習			32	224	256	8	
課題解決演習				32	32	1	
卒業論文		48	48	3			
小計		816	896	1,712	65		

区 分		科 目	時 間 数			単位数			
			1学年	2学年	合 計				
専 攻 科 目	野菜コース	必須科目 果菜類 葉菜類 根菜類 専攻地家攻 産農専課業 題	果菜類	I	64		64	4	
			葉菜類	II			32	2	
			根菜類				32	2	
			実習		8	24	32	2	
			実習		720	304	1,024	32	
			実習		16	16	32	1	
			実習		32	224	256	8	
			演習			32	32	1	
	論文			48	48	3			
	卒論			160	160	10			
	小計		840	872	1,712	65			
	花きコース	必須科目 切鉢花 木葉観 造植壇 園物苗 心習習 習習習 験験験 習習習 文	切鉢花		32		32	2	
			木葉観		32		32	2	
			造植壇			32		32	2
			園物苗		16		16	1	
			心習習			32		32	2
習習習					16		16	1	
験験験				720	304	1,024	32		
習習習				16	16	32	1		
論文		32	224	256	8				
卒論			32	32	1				
論文			48	48	3				
卒論			160	160	10				
小計		848	864	1,712	65				
果樹コース	必須科目 果樹各 樹樹各 果樹各 専攻地家攻 産農専課業 題	果樹各	総論	32		32	2		
		樹樹各	I	48		48	3		
		果樹各	II		48	48	3		
		専攻地家攻	営		32	32	2		
		産農専課業	習	720	304	1,024	32		
		題	習	16	16	32	1		
		演習		32	224	256	8		
		論文			32	32	1		
卒論			48	48	3				
論文			160	160	10				
小計		848	864	1,712	65				
畜産コース	必須科目 家家飼 飼飼飼 飼飼飼 専攻地家攻 産農専課業 題	家家飼	生理	16		16	1		
		飼飼飼	生理	16		16	1		
		飼飼飼	殖		32	32	2		
		飼飼飼	学		32	32	2		
		専攻地家攻	養	16		16	1		
		産農専課業	種	32		32	2		
		題	習	720	304	1,024	32		
		演習		16	16	32	1		
論文		32	224	256	8				
卒論			32	32	1				
論文			48	48	3				
卒論			160	160	10				
小計		848	864	1,712	65				
総履修時間		合計		1,328	1,072	2,400	108		
内実習時間		合計		768	544	1,312	41		
特 別 活 動				100	100	200	0		
総 計				1,428	1,172	2,600	108		

【養成科一年課程】

区分		科	目	時間数	単位	区分	科	目	時間数	単位	
共通科目	専門科目	必須科目	農業経営	32	2	専攻科目	野菜コース	必須科目	果菜類 I	64	4
			農業簿記	32	2				果菜類 II	32	2
			農業生産工程管理	16	1				果菜類 III	32	2
			農産物マーケティング	16	1				根菜・いも類	32	2
			環境保全と農業	16	1				専攻実習	512	16
			作物保護	32	2				農家実習	256	8
			土壌肥料	32	2				産地実習	32	1
		小計	176	11	課題解決演習		16	1			
		(6科目を選択)	96	6	小計		976	36			
		選択科目	6次産業化	専攻科目	花きコース		必須科目	切鉢	32	2	
	有機農業		花壇			32		2			
	農業と福祉		木・造園			32		2			
	農産加工		観葉植物			16		1			
	土壌診断		壇らん			32		2			
	農業機械・施設整備		専攻実習			512		16			
	大特(農耕用)		農家実習			256		8			
	けん引(農耕用)		産地実習			32		1			
	フォークリフト運転技能		課題解決演習			16		1			
	毒物・劇物		小計			976		36			
	専攻科目	水田作コース	必須科目	果樹コース	必須科目	果樹総論	32	2			
危険物						果樹各論 I	48	3			
簿記会計						果樹各論 II	48	3			
溶接(ガス、アーク)						果樹経営	32	2			
玉掛け技能						専攻実習	512	16			
GAP指導員						農家実習	256	8			
農業政策						産地実習	32	1			
農業情勢						課題解決演習	16	1			
スマート農業概論						小計	976	36			
農業経営力養成講座						畜産コース	必須科目	家畜生理	16	1	
小計		96	6	家畜衛生	16			1			
茶業コース		必須科目	履修時間	稲作技術	48			3	飼養管理	32	2
				麦作技術	16			1	飼養繁殖	32	2
				大豆作技術	16			1	飼料学	16	1
				多様な水田作物	16			1	家畜栄養	32	2
				水田農業の低コスト技術	32			2	家畜育成	16	1
				農産物流通論	16			1	専攻実習	512	16
				農産物流通論	16			1	農家実習	256	8
				農村社会論	16			1	産地実習	32	1
				専攻実習	512	16	課題解決演習	16	1		
	農家実習			256	8	小計	976	36			
産地実習	32	1	茶栽培各論 I	48	3						
産地実習	32	1	茶栽培各論 II	48	3						
課題解決演習	16	1	茶利用加工各論 I	32	2						
小計	976	36	茶利用加工各論 II	32	2						
茶業コース	必須科目	履修時間	茶栽培各論 I	48	3	専攻実習	512	16			
			茶栽培各論 II	48	3	農家実習	256	8			
			茶利用加工各論 I	32	2	産地実習	32	1			
			茶利用加工各論 II	32	2	課題解決演習	16	1			
小計	976	36	特別活動		100						
		総計			1348						

(ウ) 資格免許の取得

農業経営に必要な下記の資格免許を取得する機会が与えられる。

資格取得免許	受験学年(時期)	備考
1 大型特殊(農耕車限定)	1年生、2年生、一年課程(5月～)	農大講義
2 けん引(農耕車限定)	1年生、2年生、一年課程(6月～)	農大講義
3 フォークリフト運転技能	1年生、2年生、一年課程(通年)	
4 毒物劇物取扱者	1年生、一年課程(8月)	農大講義
5 危険物取扱者(乙種第4類)	1年生、一年課程(6月、11月)	農大講義
6 農業簿記検定	1年生、一年課程(11月)	農大講義
7 ガス溶接技能	1年生、2年生、一年課程 (6月、11月、3月)	
8 アーク溶接	1年生、2年生、一年課程 (6月、9月、11月、1月)	
9 玉掛け技能	1年生、2年生、一年課程 (5月、8月、10月、12月、2月)	
10 JGAP指導員	1年生、2年生、一年課程(未定)	

(エ) 海外等農業先進地研修

社会の国際化の進展、農産物輸出等に対応できる農業経営者等を育成するため、2学年次に国内外の農業生産、流通の実態について学習する機会を設ける。

(その他に、卒業後、国際農業者交流協会の海外農業研修に参加できる機会が与えられる。)

(才)学習時間

## 日課表

日	程	課	業	適	用
	8:50~10:20	1	限	毎週月曜日はホームルーム (※月曜日が祝祭日の場合は翌日に開催)	
	10:20~10:30	休	憩		
	10:30~12:00	2	限		
	12:00~13:00	昼食、	休憩	毎週水曜日は12:15から農産物販売	
	13:00~14:30	3	限		
	14:30~14:40	休	憩		
	14:40~16:10	4	限		

## イ 教科の内容

### (ア) 教科の内容の見方

科目ごとにその内容を記載していますが、その見方について下記に記載します。

#### a 科目名

科目の名称を示しています。

#### b 担当教員

講義等を実施する講師の所属団体等の名称を示しています。なお、令和7年3月時点での記入ですので、令和7年度は変更する場合があります。

#### c 対象年次

講義等を受ける学年を示しています。

#### d 開講時期

講義等の実施する時期であり、その時期は下記の通り分類します。

1期 4月1日～ 8月31日

2期 9月1日～12月31日

3期 1月1日～ 3月31日

#### e 必須・選択の分類

講義科目の中で必須科目、選択科目、任意科目であるかの分類を示しています。任意科目は、任意で受講出来ますが、単位認定はしません。

#### f 専攻コースNO

当冊子の「令和7年度カリキュラム」(P95)の専攻講義1～10のなかで、当該科目がどれにあたるかを表記したものです。

例：稲作技術 専攻1、2、3

#### g 授業方法

講義、演習、実習、実験の分類を示しています。

#### h 単位数

当該科目を履修し単位取得認定された場合、取得できる単位数を示しています。

#### i 到達目標

当該科目を履修することにより学生が到達可能な目標を示しています。

#### j 教育内容

当該科目の講義等の内容を示しています。

#### k 成績評価の方法

当該科目の成績を評価する方法を示しています。

#### l 使用教材・教科書

当該科目で使用する教材や教科書(テキスト)などを示しています。

(イ) 教養科目：二年課程

科目名	キャリアデザイン	担当教員	外部講師
対象年次	1年生	開講時期	2、3期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の「強み・弱み」「価値観」「能力」について客観視できるようになるとともに、それらを伝える力を育む。</li> <li>・自分の進路決定に向けて適切な情報探索行動をとれるようになり、計画的に就職活動を進められるようにする。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が卒業後、望む職業に就き、自らの資質を向上させ職業的自立を図るために必要な能力を在学中から身につける。そのためにグループワークなどを取り入れた自己分析を行い、自分がどのような価値観を持つ人間か客観的に捉えるための演習などを行うとともに、就職活動やキャリア形成に関する知識と具体的な対策について職業相談指導の専門家から学ぶ。</li> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 「私の就職活動」～先輩のケース～</li> <li>第2限 「キャリア」とは何か</li> <li>第3限 自分史から「自分らしさ」を探る</li> <li>第4限 キャリアタイプの自己分析</li> <li>第5限 自分に適する業界・会社を知ろう</li> <li>第6限 キャリアプランシートの作成</li> <li>第7限 就職活動のすすめ方</li> <li>第8限 面接対策</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・レポートの提出と授業態度で総合的に判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント資料の配布</li> </ul>		

科目名	くらしと法律	担当教員	外部講師
対象年次	1年生	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<p>・社会の中で法律は多く存在し、その中でも実生活中で身近にあり、かつ、基礎的な法律を理解する。</p>		
教育内容（授業内容）	<p>・わたしたちの生活に密着した法律である民法について、その全体像と基本概念を解説する。消費者として、生活者として、知っておくべき基本的なことがらを身につける。</p> <p>・授業計画</p> <p>第1限 } 1 民法の全体像と基本概念  第2限 } (1) 民法の意義（何を規定しているのか、他の法律との関係）  (2) 農業に関する事項</p> <p>第3限 } 2 契約の基礎知識  第4限 } (1) 契約の成立と効力  (2) カード時代の契約（消費者保護の法制度）  (3) 契約責任と不法行為責任（賠償責任論）</p> <p>第5限 } 3 相続の法  第6限 } (1) 法定相続制度（相続できる人、法定相続分）  (2) 遺言制度</p> <p>第7限 } 4 家族の法  第8限 } (1) 夫婦の法律関係（結婚の法的意味、離婚の成否）  (2) 親子関係の法（血縁と法的親子関係、特別養子制度）  (3) 試験</p>		
成績評価の方法	<p>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</p>		
使用教材・教科書	<p>・プリント資料の配布</p>		

科目名	くらしと経済	担当教員	外部講師
対象年次	1年生	開講時期	1期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業の現状や課題を経済学的視点から捉えることができる。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本の農業は、農家の減少や耕作放棄地の増加、農産物の市場開放などのさまざまな課題に直面している。こうした農業の問題は、私たちの生活や経済全体に密接に関係している。この授業では、経済学的な視点から日本の農業の今後のあり方や農業経営を考える。</li> <li>・ 授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 イントロダクション 授業ガイダンス</li> <li>第2限 日本の農業の諸問題</li> <li>第3限 食糧危機は本当にやってくるのか？</li> <li>第4限 「先進国＝工業国、途上国＝農業国」は本当か？</li> <li>第5限 自給率で食料事情は本当にわかるのか？</li> <li>第6限 土地に恵まれない日本の農業は本当に弱いのか？</li> <li>第7限 食料は安価な外国産に任せて本当に良いのか？</li> <li>第8限 試験</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・ 適宜、小テストを行い、その結果は、平常点として成績評価に加味する。</li> <li>・ 成績評価の内訳は、総括試験60%、平常点40%とする。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者作成のプリントを配布</li> </ul> (参考書籍) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「新版 農業がわかると社会のしくみが見えてくる」 (家の光協会) 生源寺真一</li> <li>・ 農林水産省『食料・農業・農村白書』各年版</li> </ul>		

科目名	統計学	担当教員	農業大学校
対象年次	1年生	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産、販売管理に必要となる基礎的な考え方、作業の進め方をパソコンとエクセルを用いた演習によって、統計手法やプレゼンテーションに必要なグラフ化するスキルを身につけ、プロジェクト研究や卒業論文のデータを分析する能力を身につける。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母集団と標本の概念</li> <li>・代表値とばらつきを表す指標の意味と計算法</li> <li>・統計的推論の考え方と検定や推定について、（パソコン）エクセルを用いてデータのとりまとめ方法を習得する。</li> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 本講義の狙いと概要説明 統計に関連する演習</li> <li>第2限 講義と演習 エクセルを用いた基本統計量等の算出方法（その1）</li> <li>第3限 講義と演習 エクセルを用いた折れ線グラフの作成</li> <li>第4限 講義と演習 エクセルを用いた基本統計量等の算出方法（その2）</li> <li>第5限 講義と演習 エクセルを用いた基本統計量等の算出方法（その3）</li> <li>第6限 講義と演習 エクセルのデータ集計機能を用いたデータの集計（その1）</li> <li>第7限 講義と演習 エクセルのデータの集計機能を用いたデータの集計（その2）とグラフ化</li> <li>第8限 講義と演習 エクセルのデータの集計機能を用いたデータの集計（その3）とグラフ化</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2回目以降の演習結果の提出状況とその内容と、8回目の演習結果を評価する。</li> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価し、総合的に判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な演習内容・配布資料にて授業を進める。</li> <li>指導用資料として「統計解析がわかる」（技術評論社）等を参考にする。</li> </ul>		

科目名	情報処理	担当教員	農業大学校
対象年次	1年生	開講時期	1期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	演習	単位数	1
到達目標	<p>・代表的なアプリケーションソフトウェアの操作方法を習得し、学校生活や将来のビジネスに必要な情報処理の基本を理解する。</p>		
教育内容（授業内容）	<p>・演習はパソコン（演習室内ネットワーク）を用いて行う。</p> <p>・授業計画</p> <p>第1限 環境設定</p> <p>第2限 オンライン授業の環境設定</p> <p>第3限 Microsoft Word 活用基礎 I</p> <p>第4限 Microsoft Word 活用基礎 II</p> <p>第5限 Microsoft Excel 活用基礎 I</p> <p>第6限 Microsoft Excel 活用基礎 II</p> <p>第7限 Microsoft PowerPoint 活用基礎 I</p> <p>第8限 Microsoft PowerPoint 活用基礎 II</p>		
成績評価の方法	<p>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</p> <p>・最終的な成績評価は、出席率、授業態度、習熟度等を加味して、総合的に判断する。</p>		
使用教材・教科書	<p>・担当職員が資料等を配布する。</p> <p>・使用する基本ソフトウェア及びアプリケーションは、Microsoft Windows 10 以上及び Microsoft Office 2016 以上とする。</p>		

科目名	英語（実用英会話）	担当教員	外部講師																		
対象年次	2年生	開講時期	1期、2期																		
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—																		
授業方法	講義	単位数	2																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人と意思疎通が図れる程度の簡単な日常英会話能力を身につける。</li> </ul>																				
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外等農業先進地研修時に活用できる基本的な日常英会話表現を学ぶ。</li> </ul> <p>・授業計画</p> <table border="0"> <tr> <td>第1限</td> <td rowspan="16"> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) あいさつの仕方、自己紹介の仕方、体の不調の訴え方、感情の表し方、物の説明の仕方、依頼の仕方、ジェスチャー表現や異文化理解についてなど。</li> <li>(2) 機内、税関、買い物（値引きの仕方）、道の効き方、レストランでの注文、トラブルに巻き込まれたときの英会話など。</li> </ul> </td> </tr> <tr><td>第2限</td></tr> <tr><td>第3限</td></tr> <tr><td>第4限</td></tr> <tr><td>第5限</td></tr> <tr><td>第6限</td></tr> <tr><td>第7限</td></tr> <tr><td>第8限</td></tr> <tr><td>第9限</td></tr> <tr><td>第10限</td></tr> <tr><td>第11限</td></tr> <tr><td>第12限</td></tr> <tr><td>第13限</td></tr> <tr><td>第14限</td></tr> <tr><td>第15限</td></tr> <tr> <td>第16限</td> <td>試験</td> </tr> </table>			第1限	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) あいさつの仕方、自己紹介の仕方、体の不調の訴え方、感情の表し方、物の説明の仕方、依頼の仕方、ジェスチャー表現や異文化理解についてなど。</li> <li>(2) 機内、税関、買い物（値引きの仕方）、道の効き方、レストランでの注文、トラブルに巻き込まれたときの英会話など。</li> </ul>	第2限	第3限	第4限	第5限	第6限	第7限	第8限	第9限	第10限	第11限	第12限	第13限	第14限	第15限	第16限	試験
第1限	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) あいさつの仕方、自己紹介の仕方、体の不調の訴え方、感情の表し方、物の説明の仕方、依頼の仕方、ジェスチャー表現や異文化理解についてなど。</li> <li>(2) 機内、税関、買い物（値引きの仕方）、道の効き方、レストランでの注文、トラブルに巻き込まれたときの英会話など。</li> </ul>																				
第2限																					
第3限																					
第4限																					
第5限																					
第6限																					
第7限																					
第8限																					
第9限																					
第10限																					
第11限																					
第12限																					
第13限																					
第14限																					
第15限																					
第16限		試験																			
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・出席率、授業態度等を加味して、総合的に判定する。</li> </ul>																				
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント等を配布</li> </ul>																				

科目名	現代社会と文化	担当教員	外部講師
対象年次	1年生	開講時期	1期、2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近で社会性のある話題や最近の農業情勢をテーマに、グループワーク等を通じて社会への適応力を高めるとともに、情報社会に対応できる基礎的なスキルを養う。</li> <li>・自らの意見を発表することにより、考えをまとめ、発表するスキルを養う。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に出るための一般時事について学ぶ。</li> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 } 社会で活躍するための、マナーや態度について学ぶ。</li> <li>第2限 } 夢を実現するための思考方法について学ぶ。 (フォーキャスト、バックキャストの考え方など)</li> <li>活動の意義を考え、主体的・能動的に活動するモチベーションを高める。</li> <li>第3限 } 表現手法の1つである動画を作成すること。グループでワークショップ等を通し、共同</li> <li>第4限 } 的手法をもって学ぶ。テーマは、受講者のニーズに合わせて作成する。</li> <li>第5限 } IoTなどの基礎技術を活用したスマート農業の基本的な考え方を、学生参加型の学習方</li> <li>第6限 } 法で学ぶ（遠隔からのセンサーを用いた温度測定など。） ドローンなどの農業に参考となる機器の紹介&amp;体験。</li> <li>第7限 } 校内意見発表会</li> <li>第8限 } 校内意見発表会</li> <li>第9限 } 校内意見発表会</li> <li>第10限 } 校内意見発表会</li> <li>第11限 } ICTスキル&amp;ICTリテラシー基礎</li> <li>第12限 } 情報社会を生き抜く情報リテラシー知識</li> <li>第13限 } オンラインデザインツール活用グループワーク実習（企画+デザイン+発表）</li> <li>第14限 } ツールの活用方法と企画を学ぶために、各グループに分かれてデザインを作成する。</li> <li>第15限 } 農大祭チラシづくり</li> <li>第16限 } 農大祭チラシづくり</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・授業態度や活動のプロセス評価を加味する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各講師の準備する資料を配付する。</li> </ul>		

科目名	農業基礎	担当教員	農業大学校
対象年次	1年生	開講時期	1期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	講義、演習	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業を学習するために必要な基礎学力を身に付ける。</li> <li>・農業を専門的に学ぶために必要な基礎知識を身に付ける。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<p><b>【農業の基本】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 農業専門用語</li> <li>第2限 農業機械、小農具の取り扱い</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【基礎数学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 計算の基礎（四則演算）</li> <li>第2限 計算の基礎（分数と割合）</li> <li>第3限 単位（長さ、面積、容積、重さ）</li> <li>第4限 面積計算</li> <li>第5限 方程式と文章問題①</li> <li>第6限 方程式と文章問題②</li> <li>第7限 農業計算（農薬希釈、肥料計算、栽植密度）①</li> <li>第8限 農業計算（農薬希釈、肥料計算、栽植密度）②</li> <li>第9限 確認試験</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【文章表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 講義のねらいと正しい文章表現</li> <li>第2限 文章の作法</li> <li>第3限 文章表現を豊かにする方法（語調の統一等）</li> <li>第4限 文章表現方法について（形容詞の使い方等）</li> <li>第5限 小論文の作成</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: center;">※校内意見発表会で発表する</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・各項目において、理解度を確認するための試験・小論文の作成を実施する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント等配布</li> </ul>		

科目名	体育	担当教員	農業大学校
対象年次	1、2年生	開講時期	1期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	演習	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康と体力の維持・増進。</li> <li>・スポーツマンシップ（フェアプレー精神）を醸成する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組む競技種目については、以下から各自、1種目を選択する。 また、選択した種目について、ルールの習得から試合形式の演習まで幅広く実施する。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 個人競技 バドミントン、テニス、卓球</li> <li>2 団体競技 バスケットボール、バレーボール、野球</li> </ol>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント等を配付</li> </ul>		

(ウ) 専門科目：必須

科目名	農業経営	担当教員	農業大学校
対象年次	2年生、一年課程	開講時期	2期、3期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	2
到達目標	・営農計画の設計から経営状況の把握・分析まで、一連の経営管理に関する基礎を学習し、PDCAサイクルにより農業経営を実践していくための基本的な考え方を理解する。		
教育内容（授業内容）	第1、2限 農業経営カードゲーム（チュートリアルも含める） 第3、4限 農業経営カードゲーム・労務管理 第5、6限 農業経営者に求められる能力、経営ビジョン・目標の明確化 第7、8限 農産物の生産計画と販売計画、農産物の原価計算、農業制度資金の利用計画 第9、10限 消費税の仕組みと計算、財務諸表の分析 第11、12限 経営収支計画の作成演習 第13、14限 経営収支計画の作成演習 第15、16限 経営収支計画の作成演習		
成績評価の方法	・養成科成績評価要領にもとづき評価する。 ・レポートの提出を課し、出席率を加味して総合的に判定する。		
使用教材・教科書	・プリント等配布		

科目名	農業簿記	担当教員	農業大学校
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	1期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営管理を行うために必要となる複式簿記による記帳を理解する。</li> <li>・ 複式簿記の基本に従い、農業簿記を行うための、基本的な知識を習得する。</li> <li>・ パソコン簿記の基本的な操作を理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業簿記の習得には、実践をすることが重要であり、実践的な演習の繰り返しで、簿記の知識・技術の習得を行う。また、パソコン簿記の操作演習も行う。</li> <li>・ 授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 複式簿記とは、貸借対照表と損益計算書、実務の流れ</li> <li>第2限 //</li> <li>第3限 勘定科目、記帳の実務（記帳のルールと仕訳）</li> <li>第4限 //</li> <li>第5限 記帳の実務（元帳への転記と集計）</li> <li>第6限 //</li> <li>第7限 記帳の実務（試算表の作成）</li> <li>第8限 //</li> <li>第9限 記帳の実務（決算整理・減価償却費の計算）</li> <li>第10限 //</li> <li>第11限 記帳の実務（精算表の作成）</li> <li>第12限 //</li> <li>第13限 記帳の実務（決算書の作成、次期貸借対照表の作成）</li> <li>第14限 // 又は、パソコン簿記の操作</li> <li>第15限 講義の復習</li> <li>第16限 確認試験</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「わかる」から「できる」へ 複式農業簿記実践テキスト 全国農業会議所</li> <li>・ 記帳感覚が身につく 複式農業簿記実践演習帳 全国農業会議所</li> <li>・ 教科書その他、演習問題のプリント及びパソコン簿記テキストを別途使用する。</li> </ul>		

科目名	農業政策	担当教員	外部講師
対象年次	1年生／一年課程	開講時期	1期
必須・選択の分類	必須／選択	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業農村を取り巻く情勢をふまえ、農業農村の活性化に向けた基本的な考え方を理解する。</li> <li>・ 三重県の農業農村の活性化に向けた施策について理解する。</li> <li>・ 農業生産と農業政策の関係について理解し、農業経営において活用できる。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 三重県の農業生産の現状と輸出の取組</li> <li>第2限 新規就農者、担い手農業者の支援施策</li> <li>第3限 農業金融政策・制度</li> <li>第4限 農地法、農業委員会制度、農業の税制等</li> <li>第5限 農業保険の仕組み</li> <li>第6限 農協の現状</li> <li>第7限 新たな価値の創造</li> <li>第8限 試験</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・ 最終の成績評価は、出席率、授業態度等を加味して、総合的に判断する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義資料を配付する。</li> </ul>		

科目名	農業生産工程管理	担当教員	中央農業普及センター 農業大学校
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	1期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<p>・農業生産工程管理の考え方、実施手法を通じ、農産物の安全管理、生産の効率化の重要性を理解する。</p>		
教育内容（授業内容）	<p>・授業計画</p> <p>第1限 農業生産工程管理（GAP）について</p> <p>第2限 労働安全とリスク評価方法について</p> <p>第3限 リスク評価の実践</p> <p>第4限            "</p> <p>第5限            "</p> <p>第6限 畜産現場における衛生管理について</p> <p>第7限 試験</p> <p>第8限            "</p>		
成績評価の方法	<p>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</p>		
使用教材・教科書	<p>・講義資料を配付する。</p>		

科目名	農産物マーケティング	担当教員	外部講師
対象年次	2年生、一年課程	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農産物マーケティングの基礎理論を学び、農業経営の戦略について理解する。</li> <li>・ 生産者の情報、商品の魅力情報の発進力を強化するための基本的考え方と発信の方法を理解する。</li> <li>・ 事業計画を策定し、自己の今後の農業経営についての目標を設定する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農産物マーケティングの基礎を理解し、事業計画の策定を行う。</li> <li>・ 授業計画 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 農業のマーケティングとは <ol style="list-style-type: none"> <li>第1限 農産物を売ることは</li> <li>第2限 現状分析（SWOT分析）</li> </ol> </li> <li>2 マーケティング戦略とコミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> <li>第3限 マーケティングミックス（商品・価格・販売チャネル・販売促進）への取組み</li> <li>第4限 コミュニケーションの取り方</li> </ol> </li> <li>3 情報発信媒体・多様な販売形態 <ol style="list-style-type: none"> <li>第5限 情報発信媒体の活用法（チラシ、雑誌、マスコミ、HP、SNSなど）</li> <li>第6限 多様な販売形態を知る（直売、委託販売、ネット販売、インターネットモール、クラウドファンディングなど）</li> </ol> </li> <li>4 事業計画策定 <ol style="list-style-type: none"> <li>第7限 私の事業計画の策定 1</li> <li>第8限 私の事業計画の策定 2</li> </ol> </li> </ol> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・ 最終的な成績評価は、出席率、授業態度等を加味して、総合的に判断する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に教科書は指定しないが、講義毎に必要なプリント等を配付。</li> </ul>		

科目名	作物概論（水田作・茶）	担当教員	農業大学校
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	1期
必須・選択の分類	必須：1年生 任意：一年課程	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【水田作】 本県における土地利用型作物の現状と栽培基礎知識を理解する。</li> <li>・【茶】 お茶の起源・歴史・文化・効能、多様なお茶の種類を理解するとともに、本県および国内における茶生産の現状と栽培基礎知識を理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<p>【水田作】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 稲作を中心に品種の特徴、栽培の実際などの概説を行い、作物栽培の意義を考える。</li> <li>・ 授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 三重県の水田作物</li> <li>第2限 植物としてのイネ</li> <li>第3限 水稻栽培</li> <li>第4限 麦・大豆</li> <li>第5限 試験</li> </ul> </li> </ul> <p>【茶】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適宜配布する資料にそって主に講義形式で行う。</li> <li>・ 国内の緑茶だけにとどめず、紅茶、ウーロン茶など多様な世界の茶についても紹介する。</li> <li>・ 授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 茶の分類、機能性成分と効能</li> <li>第2限 三重の茶産地の特徴と実際の栽培管理</li> <li>第3限 試験</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【稲作】 養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・ 【茶】 養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul> <p>出席率を加味して総合的に合否を判定する。</p>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【水田作】 「新版 作物栽培の基礎」（農山漁村文化協会） プリント等を配布。</li> <li>・ 【茶】 プリント等を配布。 指導用教官用資料として、「日本のお茶 Ⅲお茶と文化」（ぎょうせい発行） 「緑茶の事典」（柴田書店）等を使用</li> </ul>		

科目名	園芸概論（野菜、花き、果樹）	担当教員	農業大学校 中央農業改良普及センター
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	1期
必須・選択の分類	必須：1年生 任意：一年課程	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【野菜】 県内の野菜生産の現状と課題について理解し、それらについての対策及び今後の振興策を習得する。野菜栽培の基本的知識及び技術の現場での活用方法を理解する。</li> <li>・【花き】 県内の花き栽培の現状と栽培基礎知識を理解する。</li> <li>・【果樹】 生理、生態、専門用語、基本的栽培技術等基礎的な知識や、県内の主な果樹及び産地について理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<p>【野菜】 野菜について、由来、種類と品種、特性及び実際の栽培について基礎的な理解を深める。県内主要野菜について産地の概要も学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 野菜の種類と利用、野菜の生産動向と課題について</li> <li>第2限 三重県における野菜生産の特徴と今後の主要野菜振興について</li> <li>第3限 野菜の生理・生態と栽培について</li> <li>第4限 野菜の肥培管理と防除の基本</li> <li>第5限 代表的な野菜の栽培について</li> <li>第6限 試験</li> </ul> </li> </ul> <p>【花き】 人間生活を豊かにする花きと人との関わり方、花きの分類方法、園芸セラピー等園芸のもつ効果、花きの品質と品質保持等、花きの生産販売の一般的知識の習得とともに花きの開花調節、繁殖方法等、栽培の重点項目を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 人間生活と花きとの関わり方</li> <li>第2限 三重県における花き栽培の現状</li> <li>第3限 三重県における花き分野における最近の研究成果と研究内容</li> <li>第4限 花きの生理・生態と栽培について</li> <li>第5限 試験</li> </ul> </li> </ul> <p>【果樹】 果樹栽培に共通した生理・生態を学ぶとともに、専門用語の解説、栽培技術の紹介を行い、基礎的な知識を習得させる。また、県内の主要果樹及び産地の動きについて、中央農業改良普及センターより講師を招き、紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 果樹の種類、果樹の生産と消費、貯蔵・加工の基礎、果樹の機能性成分</li> <li>第2限 果樹の成長と果実生産、花・果実のしくみと発達、枝の成長と整枝・剪定</li> <li>第3限 基本になる栽培管理技術、土壌管理とかん水、施肥、整枝・剪定、施設栽培・高品質果栽培</li> <li>第4限 三重県の主な果樹及び産地について</li> <li>第5限 試験</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【野菜】【花き】【果樹】 養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【野菜】 「野菜栽培の基礎」（農山漁村文化協会）</li> <li>・【花き】 「草花栽培の基礎」（農山漁村文化協会）</li> <li>・【果樹】 「果樹栽培の基礎」（農山漁村文化協会）、プリント等を配付</li> </ul>		

科目名	畜産概論	担当教員	農業大学校 中央農業改良普及センター
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	1期
必須・選択の分類	必須：1年生 任意：一年課程	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・畜産業とはいかなる産業か、農業生産における動物生産の役割、さらに本県における畜産の現状について学び、各畜種（牛、豚、鶏）の基礎的な知識・飼養技術を理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業における畜産の位置づけについて</li> <li>・家畜の種類と特性について</li> <li>・主な家畜の改良、生理、栄養、衛生、飼養管理について</li> <li>・飼料作物の栽培、収穫、貯蔵加工について</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 畜産の役割と動向、家畜の生理・生態と飼育環境</li> <li>第2限 飼料の生産と利用</li> <li>第3限 家畜飼育の実際【養鶏】</li> <li>第4限 家畜飼育の実際【養豚】</li> <li>第5限 家畜飼育の実際【酪農】</li> <li>第6限 家畜飼育の実際【肉牛】</li> <li>第7限 三重の畜産概要と新技術等について</li> <li>第8限 確認試験</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・出席率、授業態度等を加味して、総合的に判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<p>プリント等配布</p>		

科目名	植物生理	担当教員	農業大学校
対象年次	1年生	開講時期	2期、3期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物のつくりと生理作用に関する基本的なことを学習することにより、実際の栽培において、特に光・温度・水等の環境要因が、栽培作物とどのように関係し、管理されているかについて理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各作物に共通する主な体のつくりと働き、生命を維持するための物質代謝について、実際の栽培を勘案しながら説明し、栽培管理技術の向上につなげる。</li> <li>・質問等により学生の理解を促すとともに、理解度に応じ講義を展開することとする。</li> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 講義の進め方説明、細胞の作りと働き</li> <li>第2限 組織・組織系、器官とその構造（根・茎・葉・花・果実・種子）</li> <li>第3限 光合成①</li> <li>第4限 光合成②</li> <li>第5限 呼吸</li> <li>第6限 物質の代謝（窒素の代謝・脂肪の代謝）</li> <li>第7限 作物と水、無機養分</li> <li>第8限 中間テスト</li> <li>第9限 植物ホルモン</li> <li>第10限 植物ホルモン</li> <li>第11限 種子の発芽</li> <li>第12限 作物の生長</li> <li>第13限 作物の開花</li> <li>第14限 授精・結実・結果</li> <li>第15限 植物の色</li> <li>第16限 確認テスト</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント資料</li> </ul>		

科目名	植物育種	担当教員	農業研究所
対象年次	2年生	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物の進化、遺伝の基礎概念と育種法の概要を習得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物育種の基礎となる「変異の作出」と「固定・選抜」について、細胞分裂やDNAの構造等の関連情報を加味した講義を行う。</li> <li>・自殖性種子繁殖作物、他殖性種子繁殖作物および栄養繁殖性作物の代表として、それぞれ「イネ」、「イチゴ」に関する実際の育種現場を視察し、知識を習得させる。</li> <li>・品種登録出願と育成者権に関する基礎的な講義を行う。</li> </ul> <p>・授業計画</p> <p>第1限 植物育種の基礎（育種の手順、変異の作出、育種方法）</p> <p>第2限            "            "</p> <p>第3限 イネ育種の実際</p> <p>第4限            "            "</p> <p>第5限 イチゴ育種の実際</p> <p>第6限            "            "</p> <p>第7限 種苗法、品種登録制度の基礎</p> <p>第8限 試験</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・出席率、授業態度等を加味して、総合的に判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント資料の配付</li> </ul>		

科目名	環境保全と農業	担当教員	農業大学校 外部講師 中央農業改良普及センター
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	3期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全型農業に対する理解を深め、それに関係する法律や制度などを理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全型農業を実践している講師などによる講義。</li> <li>・各種制度や、気候変動の現状と対策などを解説。</li> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 みどりの食料システム戦略について</li> <li>第2限 環境保全型農業関係の制度等について</li> <li>第3限 気候変動が農業に及ぼす影響と適応状況</li> <li>第4限 農大での環境保全型農業の取り組み</li> <li>第5限 環境保全型農業の実践農業経営者の講義</li> <li>第6限 //</li> <li>第7限 環境保全型農業に向けての最新技術</li> <li>第8限 //</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・出席率、授業態度、レポート等を加味して、総合的に判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント資料の配布</li> </ul>		

科目名	作物保護	担当教員	農業大学校 農業研究所 中央農業改良普及センター
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	2期、3期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病害虫から農作物を保護するため、主な病害虫の種類・生理・生態及びそれらの防除に対する基本的な知識を習得する。</li> <li>・野生動物から農作物を保護するため、被害の実態と原因の解析、主な野生動物の種類・生理・行動及びそれらの防除に対する基本的な知識を習得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主な病害虫や野生動物の特徴や作物保護の考え方、具体的な防除手段について解説する。</li> <li>・「農薬」については、その安全使用について「農薬取締法」や「食品衛生法」を踏まえて説明する。</li> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 害虫（昆虫、ダニ類、センチュウ類等）の生態と防除</li> <li>第2限 //</li> <li>第3限 病害（糸状菌、細菌、ウイルス等）の生態と防除</li> <li>第4限 //</li> <li>第5限 農薬の安全使用について（農薬取締法、食品衛生法、指定種苗制度）</li> <li>第6限 //</li> <li>第7限 総合的病害虫管理（多様な病害虫防除方法）</li> <li>第8限 //</li> <li>第9限 //</li> <li>第10限 気象災害とその対策</li> <li>第11限 雑草管理</li> <li>第12限 輸出に向けての防除対応</li> <li>第13限 野生鳥獣の種類及び特徴、野生鳥獣による農作物被害状況</li> <li>第14限 鳥獣害対策の現状と課題、演習</li> <li>第15限 試験</li> <li>第16限 //</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・出席率、授業態度を加味して、総合的に判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「農薬概説2024」（一般社団法人 日本植物防疫協会）</li> <li>・プリント等を配布</li> </ul>		

科目名	土壌肥料	担当教員	農業大学校 中央農業改良普及センター 農林水産部農産物安全・流通課 外部講師
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌と微生物と肥料の働きに関する基礎的知識を習得する。</li> <li>・環境に配慮した土づくりや施肥方法を習得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 土の役割</li> <li>第2限 作物の生育と養分</li> <li>第3限 簡易な土壌診断</li> <li>第4限 //</li> <li>第5限 肥料全般</li> <li>第6限 小テスト</li> <li>第7限 肥料資材</li> <li>第8限 肥料の品質の確保等に関する法律</li> <li>第9限 茶園の土壌と土づくり</li> <li>第10限 花き栽培の土づくり</li> <li>第11限 水稻栽培と水田土壌、畑作(麦・大豆)の土づくり</li> <li>第12限 果樹栽培と土壌肥料</li> <li>第13限 野菜の土壌と施肥管理</li> <li>第14限 家畜ふん堆肥の特徴と施用</li> <li>第15限 試験</li> <li>第16限 //</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・中間で小テストを実施し、最終回に総括試験を実施する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図解でよくわかる 土・肥料のきほん」(誠文堂新光社)</li> <li>・プリント等を配付</li> </ul>		

科目名	農業情勢	担当教員	外部講師
対象年次	2年生／一年課程	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須／選択	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業経営や農産物流通の実態、SNS によるマーケティング手法について理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分野毎に専門の講師が講義する。</li> <li>・ 授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 } 農産物流通</li> <li>第2限 } 流通の仕組み等解説するとともに、市場の現地視察を行う。</li> <li>第3限 } 農業経営の実際</li> <li>第4限 } 農業経営者（先進的農家等）の経験を踏まえた実践農業について講義する。</li> <li>第5限 } SNS マーケティング基礎</li> <li>第6限 } 各種ツールの特性理解と企画提案実習</li> <li>第7限 } 生成 AI ツールの特性理解</li> <li>第8限 } 生成 AI ツールの活用提案実習（グループワーク）</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・ 出席率、授業態度を加味し、総合的に判断する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義資料を配付する。</li> </ul>		

科目名	農業気象学	担当教員	外部講師
対象年次	2年生	開講時期	1期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な気象知識を学習し、各種気象情報資料を通じて気象の農業への利用を理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 } (1) 基礎事項</li> <li>第2限 } 農業気象学の範囲（構成する分野、関連する項目、気象観測、気象災害、気象情報の農業への利活用）</li> <li>第3限 } (2) 気象予報と天気図の見方</li> <li>第4限 } 天気予報、季節予報、降水確率、天気図、等圧線、高気圧、低気圧、前線</li> <li>第5限 (3) 天気予報 <ul style="list-style-type: none"> <li>天気予報はどのようにして出されるのか</li> <li>コンピュータを使った数値計算</li> </ul> </li> <li>第6限 (4) コンピュータと農業気象 <ul style="list-style-type: none"> <li>農業へのコンピュータ利用の変遷</li> <li>アメダスなどインターネット上で公開されている気象情報</li> </ul> </li> <li>第7限 (5) 最新の農業 ICT 研究事例紹介 <ul style="list-style-type: none"> <li>積算温度を用いた栽培ステージの予想</li> </ul> </li> <li>第8限 (6) 筆記試験</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・筆記試験 60%、レポート 40%。出席率による加点あり。</li> <li>・レポートはテーマ毎に出題</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント等を配付する。</li> <li>・参考書籍「新・農業気象・環境学」（長野 敏英・大政 謙次 編、朝倉書店）、「新訂 農業気象の測器と測定法」（日本農業気象学会 編、農業技術協会）。</li> </ul>		

科目名	農業機械論	担当教員	農業大学校
対象年次	1年生	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業機械の構造、機能運転操作、保守管理及び作業安全に関する基礎的な知識を習得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義と実地見学を交えながら農業機械の構造・機能と利用について解説する。</li> <li>・ 校内で実習を行う専攻の実習施設・機械の現地見学を行うことで、構造や使い方の理解を深める。</li> <li>・ 授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 農業と農業機械</li> <li>第2限 原動機の構造と整備</li> <li>第3限 水田作用農業機械</li> <li>第4限 // （実地見学）</li> <li>第5限 野菜・花き栽培用農業機械</li> <li>第6限 // （実地見学）</li> <li>第7限 農業機械の利用と機械化体系</li> <li>第8限 試験</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「農学基礎セミナー 農業機械の構造と利用」（農山漁村文化協会）</li> <li>・ プリントの配布</li> </ul>		

科目名	スマート農業概論	担当教員	農業大学校 農業研究所 外部講師
対象年次	1年生／一年課程	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須／選択	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロボット技術やICT等の新技術を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現することなどを推進するスマート農業について、その概要を理解するとともに、スマート農業機器・機械の演習を行うことにより、操作方法を学ぶ。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業の概要を学ぶ講義に加え、実際にスマート農業機器・機械を扱う講義により、活用事例や操作方法を学ぶ。</li> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 スマート化技術の現状と展望、事例紹介</li> <li>第2限        "</li> <li>第3限 スマート農業機械の操作（演習）</li> <li>第4限        "</li> <li>第5限 手作りスマート農業、IoT技術について</li> <li>第6限        "</li> <li>第7限 農業におけるドローンの活用について</li> <li>第8限        "</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・出席率、授業態度等を加味して、総合的に判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料にて授業を進める。</li> </ul>		

科目名	6次産業化	担当教員	農業大学校 中央農業改良普及センター 工業研究所 医療保健部食品安全課 外部講師
対象年次	2年生／一年課程	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須／選択	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6次産業化の背景や方法などについて学習し、農畜産物の生産だけでなく、加工や販売を行ううえで必要な知識を習得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6次産業化についての背景や取組事例を紹介する。</li> <li>・ 食生活や食品の栄養、加工方法、衛生管理、食品表示等についての基礎的知識を習得する。</li> <li>・ 授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 6次産業化の動向と諸制度、事例紹介</li> <li>第2限 6次産業化実践農家による講義</li> <li>第3限 食品加工の目的と加工方法</li> <li>第4限 貯蔵中の加工食品の変質とその対策</li> <li>第5限 食品製造にかかわる衛生管理、食品衛生法、HACCP、食品表示</li> <li>第6限 食生活と食品の栄養</li> <li>第7限 売れてる6次産業化商品から学ぶ</li> <li>第8限 グループワークと発表</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・ 出席率、授業態度等を加味して、総合的に判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「食品製造」（実教出版）</li> <li>・ プリント等を配付する。</li> </ul>		

科目名	海外等農業先進地研修	担当教員	農業大学校
対象年次	2年生	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース N0	—
授業方法	演習	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の国際化の進展、農産物輸出等に対応できる農業経営者等に必要な、国内外の農業生産、流通の実態について理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の国際化の進展、農産物輸出等の理解度を深めるため、海外又は国内で大規模経営及び海外輸出に取り組んでいる農業経営体等の視察研修を行う。</li> <li>視察研修前の事前学習と、視察研修後のレポート作成により、視察研修地についての理解を深めさせるとともに、自らのステップアップが見えるようにする。</li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視察研修後にレポートを提出させ、評価対象とする。</li> <li>・視察研修に参加できない学生に関しては、学校長がやむを得ない事由と認めた場合に限り、別途レポート及び課題を与え、評価対象とする。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント等を配布する。</li> </ul>		

(エ) 専門科目：選択（二年課程は選択Aで3科目以上、選択Bで2科目以上選択が必要。一年課程は選択A・B及び6次産業化、農業政策、農業情勢、スマート農業概論、経営力養成講座の中で6科目以上選択が必要。ただしコンピューター演習、フラワーデザインは除く）

a 選択A（有機農業、農業と福祉、農産加工、土壌診断、コンピューター演習、フラワーデザイン、農業機械・施設整備の中から3科目選択：二年課程）

科目名	有機農業	担当教員		外部講師	
対象年次	2年生、一年課程	開講時期		2期	
必須・選択の分類	選択	専攻コース NO		—	
授業方法	講義、演習	単位数		1	
到達目標	<p>・みどりの食料システム戦略が策定され、環境保全として有機農業の栽培面積の拡大が求められている。有機農業を実践する農業者による講義や、農薬や化学肥料を使用しない栽培技術について学ぶ。また、堆肥作り実習を行い、堆肥の原料となる資材や配合比率、切り返し方法などを学び、堆肥を作る技術を習得する。</p>				
教育内容（授業内容）	<p>・授業計画</p> <p>第1限 先進有機農業者による講義</p> <p>第2限 〃</p> <p>第3限 有機農業の土づくり</p> <p>第4限 病害虫の発生要因</p> <p>第5限 堆肥作り実習</p> <p>第6限 〃</p> <p>第7限 〃</p> <p>第8限 〃</p>				
成績評価の方法	<p>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</p> <p>・出席率、授業態度等を加味して、総合的に判定する。</p>				
使用教材・教科書	<p>・プリント等を配付する。</p>				

科目名	農業と福祉	担当教員	農林水産部担い手支援課 外部講師
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	2期、3期
必須・選択の分類	選択	専攻コース NO	—
授業方法	講義、演習	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業に参入する福祉事業所への就職を希望する学生が、備えるべき必要最低限の福祉に関する知識を習得する。</li> <li>・就職した農業法人等において、障がい者を雇用する際、経営者と障がい者の橋渡しができる。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 障害の種類、実態 知的障害、精神障害、発達障害など、障害の種類と実態を学ぶ。</li> <li>第2限 農福連携の基礎 福祉の基本的な考え方及び福祉分野において農業が必要とされていることを学び、本校で「福祉」を学ぶ意義を理解する。</li> <li>第3限 障がい者福祉の基本理念 障がい者福祉（自立支援）の考え方、障がい者教育、障がい者雇用、福祉事業所について学ぶ。</li> <li>第4限 三重県の農業分野における障がい者雇用施策 三重県の農業分野における、障がい者雇用の現状と具体的な取組みについて学ぶ。</li> <li>第5限 } 福祉事業所視察</li> <li>第6限 }</li> <li>第7限 } 福祉事業所視察</li> <li>第8限 } 農業分野に参入している福祉事業所を視察し、農作業を通じて障がい者と交流し、障がい者の特性を理解する</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・最終講義で作成する「課題レポート」の内容、出席率、授業態度等を加味して、総合的に判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント資料</li> </ul>		

科目名	農産加工	担当教員	中央農業改良普及センター 外部講師
対象年次	2年生、一年課程	開講時期	2期、3期
必須・選択の分類	選択	専攻コース NO	—
授業方法	演習	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物が生鮮で販売されるだけでなく、加工することにより付加価値が高まることを理解する。</li> <li>・自己で農産物を加工する基礎的な知識と技術を習得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物を加工し付加価値を高めることの意義を学ぶとともに、農産加工の原理と方法、主な農産物の加工方法や貯蔵方法など、基礎的な知識と技術を習得する。</li> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 工業研究所見学</li> <li>第2限 //</li> <li>第3限 野菜類の加工</li> <li>第4限 農産加工の衛生</li> <li>第5限 野菜類の加工</li> <li>第6限 農産加工品の保存方法</li> <li>第7限 穀類の加工</li> <li>第8限 農産加工の製造原価、賞味期限設定手法等</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・実習終了後、実習レポートの提出を課す。</li> <li>・実習レポートの内容、授業態度等を加味して、総合的に判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント等を配付する。</li> <li>・実習の際の持ち物：エプロン、マスク、三角巾、ハンカチ</li> </ul>		

科目名	土壌診断	担当教員	農業研究所
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	3期
必須・選択の分類	選択	専攻コース NO	—
授業方法	演習	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作物の栽培に供するための土壌分析・診断・処方箋作成方法の基礎知識と技能を習得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 } 土壌分析実習</li> <li>第2限 } 圃場での土壌採取、乾燥</li> <li>第3限 } 分析：pH, EC, 硝酸態窒素, 塩基類</li> <li>第4限 }</li> <li>第5限 }</li> <li>第6限 }</li> <li>第7限 } 土壌診断結果の評価および処方箋（対応策）の作成</li> <li>第8限 }</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・出席率、授業態度等を加味して、総合的に判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント等を配付する。</li> </ul>		

科目名	コンピューター演習	担当教員	農業大学校
対象年次	2年生	開講時期	1期
必須・選択の分類	選択	専攻コース NO	—
授業方法	演習	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般常識としてのコンピューター操作を習得する。</li> <li>・ワープロや表計算ソフト、プレゼンテーションの操作を習得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワードプロセッサによる文書作成と応用</li> <li>・表計算ソフトの操作及びデータの集計とグラフ化の応用</li> <li>・プレゼンテーション用スライドの作成</li> <li>・演習はパソコン（教室内LANでネットワーク）を用いて行う。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 パソコンの基本的操作と文書作成（Microsoft Word）及びその応用</li> <li>第2限        "</li> <li>第3限 表計算ソフト（Microsoft Excel）の操作及びデータの集計とグラフ化</li> <li>第4限        "</li> <li>第5限        "</li> <li>第6限        "</li> <li>第7限 プレゼンテーション用スライドの作成</li> <li>第8限        "</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・演習問題や実習内容を評価し、出席率を加味した上で総合的に合否を判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンとその周辺装置を使って演習する。</li> <li>・使用する基本ソフトウェア及びアプリケーションは、Microsoft Windows 10 以上及び Microsoft Office 2016 以上。</li> <li>・演習問題や関係資料は担当教員が作成する。</li> </ul>		

科目名	フラワーデザイン	担当教員	外部講師
対象年次	1年生	開講時期	2期
必須・選択の分類	選択	専攻コース NO	—
授業方法	演習	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営との関わりを意識したフラワーデザイン技術を習得する。</li> <li>・身の回りの自然の素材を活かしていくための基礎技術を習得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 基礎的なデザイン技術の習得。</li> <li>第2限 //</li> <li>第3限 トレンドを意識したデザイン技術の習得。</li> <li>第4限 //</li> <li>第5限 校内の花木等、身近な材料を使用したデザイン技術の習得。</li> <li>第6限 //</li> <li>第7限 基礎的なデザイン技術のまとめ及び個性を生かした表現技術の習得。</li> <li>第8限 //</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・出席率、授業態度等を加味して、総合的に判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント等を配付する。</li> </ul>		

科目名	農業機械・施設整備	担当教員	農業大学校 外部講師
対象年次	2年生、一年課程	開講時期	2期、3期
必須・選択の分類	選択	専攻コース NO	—
授業方法	演習、講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業機械整備の基本や労働安全等を理解し、保守点検及び安全な操作、簡単な農業機械の修理ができる。</li> <li>・農業用施設の構造、機能を学び、簡単な施設のメンテナンスができる。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トラクター等主要な農業機械の構造、機能を学ぶとともに、点検整備に関する技術を習得させる。</li> <li>・農業用施設の資材や構造、機能を学ぶとともに、施設のメンテナンスに関する技術を習得させる。</li> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 } トラクター日常点検箇所を交換・清掃・調整等の実技</li> <li>第2限 } "</li> <li>第3限 } 刈払機の日常点検</li> <li>第4限 } "</li> <li>第5限 } 圃場でのトラクター、耕耘機操作演習</li> <li>第6限 } "</li> <li>第7限 } 農業用施設の構造とメンテナンス</li> <li>第8限 } "</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・出席率、授業態度を加味し、総合的に判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント等を配付する。</li> </ul>		

b 選択B（大特（農耕用）、けん引（農耕用）、フォークリフト運転技能、毒物・劇物、危険物、簿記会計、溶接（ガス、アーク）、玉掛け技能、GAP指導員の中から2科目選択：二年課程）

科目名	大特（農耕用）	担当教員	農業大学校
対象年次	1、2年生、一年課程	開講時期	通年
必須・選択の分類	選択	専攻コースNO	—
授業方法	演習	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営に必要な不可欠なトラクターの基本的な操作方法を習得し、大型特殊免許（農耕用）を取得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校のトラクターコースで大型トラクターの運転操作練習を行い、三重県運転免許センターで実技試験を受験する。          なお、実技試験を受験するためには、事前に学科試験に合格しておく必要がある。</li> <li>・演習時間は専攻実習を活用することとする。</li> <li>・授業計画           <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 トラクターコースでの走行方法等               <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）農作業安全に関する講義、基礎的なトラクターの操作（講義）</li> <li>（2）トラクターコースでの進路変更方法、方向指示器点灯方法、安全確認方法（講義）</li> <li>（3）トラクターコースでの実技演習①（演習）</li> </ul> </li> <li>第2回 トラクターコースでの実技演習②（演習）</li> <li>第3回 トラクターコースでの実技演習③（演習）</li> <li>第4回 三重県運転免許センターで実技試験</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型特殊免許（農耕用）取得により単位取得とする。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当職員が作成したレジュメを配付する。</li> </ul>		

科目名	けん引（農耕用）	担当教員	農業大学校
対象年次	1、2年生、一年課程	開講時期	1期、2期
必須・選択の分類	選択	専攻コース NO	—
授業方法	演習	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トラクターのけん引の基本操作を習得し、けん引免許（農耕用）を取得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校のトラクターコースで大型トラクターのけん引運転操作の練習を行い、三重県運転免許センターで実技試験を受験する。          なお、実技試験を受験するためには事前に大型特殊免許（農耕用）を取得する必要がある。</li> <li>・演習時間は専攻実習を活用することとする。</li> <li>・受講人数が多い場合には人数調整を行う。（畜産・水田作・茶業専攻コース選択者を優先する）。</li> <li>・授業計画           <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 トラクターコースでの走行方法等               <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）農作業安全に関する講義、基礎的なけん引の操作（講義）</li> <li>（2）トラクターコースでの実技演習Ⅰ（演習）</li> </ul> </li> <li>第2回 トラクターコースでの実技演習Ⅱ（演習）</li> <li>第3回 トラクターコースでの実技演習Ⅲ（演習）</li> <li>第4回 三重県運転免許センターで実技試験</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けん引免許（農耕用）取得により単位取得とする。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当職員が作成したテキスト又はレジュメを使用。</li> </ul>		

科目名	フォークリフト運転技能	担当教員	自動車教習所等
対象年次	1、2年生、一年課程	開講時期	通年
必須・選択の分類	選択	専攻コース NO	—
授業方法	演習	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォークリフトを使用するのに必要な基本的な知識、技術を習得し、フォークリフト運転技能講習終了証を取得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車教習所等が実施するフォークリフト運転技能講習を受講する。</li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォークリフト運転技能講習修了証取得により単位取得とする。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車教習所等が配付する資料。</li> </ul>		

科目名	毒物・劇物	担当教員	農業大学校
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	1期
必須・選択の分類	選択	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営に活用できる毒物劇物管理の知識を習得し、「毒物劇物取扱者（農業用品目）または（一般）」資格を取得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書や配布プリントにそって講義を行う。</li> <li>・三重県で過去に出題された試験問題を解いて、知識の確認を行う。</li> <li>・試験は、三重県で年1回8月に実施される。</li> </ul> <p>・授業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 毒物及び劇物に関する法令</li> <li>第2限 //</li> <li>第3限 化学の基礎知識</li> <li>第4限 //</li> <li>第5限 毒物及び劇物の性状・貯蔵・取扱方法</li> <li>第6限 //</li> <li>第7限 毒物及び劇物の実地</li> <li>第8限 //</li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毒物劇物取扱者の資格取得により単位取得とする。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「毒物劇物取扱者合格教本」（技術評論社）</li> <li>・三重県の過去問題</li> <li>・プリント資料</li> </ul>		

科目名	危険物	担当教員	農業大学校
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	1期
必須・選択の分類	選択	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営に活用できる危険物管理の知識を習得し、「危険物取扱者（乙種第4類）」資格を取得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「乙4類危険物取扱者受験教科書」（向学院）を教科書とし、配布プリントにそって板書中心に講義形式で行う。</li> <li>・4回目の講義において模擬テストを実施し、知識の確認を行う。</li> <li>・試験は6月と11月の年2回実施されるが、原則、6月試験を受験する（不合格の場合は11月試験を受験する）。</li> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1、2限 1 物理学と化学の基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 基礎的物理学及び基礎的化学</li> <li>(2) 燃焼の基礎知識</li> <li>(3) 消火に関する基礎知識</li> </ul> </li> <li>第3、4限 2 危険物の性質並びにその火災予防および消火の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 第四類危険物以外の危険物の概要</li> <li>(2) 第四類危険物の概要</li> </ul> </li> <li>第5、6限 3 危険物に関する法令 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 消防法</li> <li>(2) 危険物の規制に関する政令</li> <li>(3) 危険物の規制に関する規則</li> </ul> </li> <li>第7、8限 模擬テスト</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険物取扱者（乙種第4類）資格取得により単位取得とする。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「乙4類危険物取扱者受験教科書」（向学院）</li> <li>・プリント資料</li> </ul>		

科目名	簿記会計	担当教員	農業大学校
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	2期
必須・選択の分類	選択	専攻コース NO	—
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業経営に必要な簿記会計の基礎的知識を習得し、農業簿記検定3級を取得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 農業簿記の概要、簿記一巡の手続き、勘定科目</li> <li>第2限 "</li> <li>第3限 収益・費用の記帳方法</li> <li>第4限 "</li> <li>第5限 流動資産および流動負債、固定資産</li> <li>第6限 "</li> <li>第7限 決算書の作成</li> <li>第8限 "</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業簿記検定試験3級の受験及び試験結果の報告を必須とする。</li> <li>・ 出席率、授業態度、農業簿記検定試験の可否及び試験結果等を考慮して、総合的に判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業簿記検定教科書3級（大原出版）</li> <li>・ 農業簿記検定問題集3級（大原出版）</li> </ul>		

科目名	溶接（ガス、アーク）	担当教員	三重県人材開発センター
対象年次	1、2年生、一年課程	開講時期	通年
必須・選択の分類	選択	専攻コース NO	—
授業方法	講義、演習	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ガス溶接」は、可燃性ガス、酸素、溶接装置の知識及び溶接作業に関する関係法令の学科と、溶接装置の取扱い及び溶接、溶断作業の実技により、ガス溶接技能講習修了証を取得する。</li> <li>・「アーク溶接」は、アーク溶接の基礎理論、電気の知識、アーク溶接装置、アーク溶接作業の方法及び溶接関係法令の学科と、アーク溶接装置の取り扱い及びアーク溶接作業の実技により、アーク溶接等の業務にかかる特別教育修了証を取得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<p>「ガス溶接」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三重県人材開発センターで3日間、ガス溶接業務のために必要な知識と技能の講習を受ける。</li> <li>・講習日程 <ul style="list-style-type: none"> <li>（1日目）可燃性ガス及び酸素に関する知識、設備の構造及び取扱いに関する知識Ⅰ</li> <li>（2日目）設備の構造及び取扱いに関する知識Ⅱ、関係法令、修了試験、設備の取扱いⅠ（実技）</li> <li>（3日目）設備の取扱いⅡ（実技）、ガス溶接作業の基本（実技）</li> </ul> </li> </ul> <p>「アーク溶接」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三重県人材開発センターで3日間、アーク溶接作業のために必要な知識と技能の講習を受ける。</li> <li>・講習日程 <ul style="list-style-type: none"> <li>（1日目）アーク溶接の基礎理論、装置、作業方法に関する知識Ⅰ</li> <li>（2日目）アーク溶接の作業方法に関する知識Ⅱ、関係法令、溶接装置の取扱いⅠ（実技）</li> <li>（3日目）溶接装置の取扱いⅡ（実技）、作業方法（実技）、溶接装置の点検（実技）</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガス溶接技能講習修了証取得またはアーク溶接等の業務にかかる特別教育修了証取得により単位取得とする。</li> <li>・「ガス溶接」および「アーク溶接」の両方修了証を取得しても、取得単位は1単位のみとする。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三重県人材開発センターが配付する資料</li> </ul>		

科目名	玉掛け技能	担当教員	三重県人材開発センター
対象年次	1, 2年生、一年課程	開講時期	通年
必須・選択の分類	選択	専攻コース NO	—
授業方法	講義、演習	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業生産法人の経営の効率化促進に効果的な技能である玉掛け作業（吊り上げ加重1トン以上のクレーンなど）の基本的な知識、技術を習得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三重県人材開発センター等が実施する玉掛け技能講習を受講する。</li> <li>・ 講習日程 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1回（1日目：学科） <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）クレーン等に関する知識</li> <li>（2）クレーン等の玉掛けに必要な力学の知識</li> <li>（3）クレーン等の玉掛け方法の知識</li> </ul> </li> <li>・ 第2回（2日目：学科） <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）クレーン等の玉掛け方法の知識</li> <li>（2）関連法令</li> </ul> </li> <li>・ 第3回（3日目：学科修了試験、実技） <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）学科修了試験</li> <li>（2）クレーン等の玉掛け（重量目測、用具の選定及び使用、玉掛け作業）</li> <li>（3）クレーン等の運転のための合図</li> </ul> </li> <li>・ 第4回（4日目：実技、実技修了試験） <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）クレーン等の玉掛け（重量目測、用具の選定及び使用、玉掛け作業）</li> <li>（2）実技修了試験</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 玉掛け技能講習修了証取得により単位取得とする。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三重県人材開発センター等講習実施機関が配付する資料。</li> </ul>		

科目名	G A P 指導員	担当教員	外部講師
対象年次	1、2年生、一年課程	開講時期	通年
必須・選択の分類	選択	専攻コース N0	—
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ J G A P の基礎を習得し、J G A P 指導員の資格を取得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講習実施機関が実施する J G A P 指導員基礎研修を受講する。</li> <li>・ 講習日程（予定） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 日目 （1） J G A P 実践講座 <ul style="list-style-type: none"> <li>G A P の基礎とその必要性</li> <li>J G A P 認証とは</li> <li>G A P の導入について</li> <li>国内外の G A P をとりまく状況</li> </ul> </li> <li>・ 2 日目 （2） J G A P の解説 <ul style="list-style-type: none"> <li>経営の基本</li> <li>経営資源の管理</li> <li>栽培工程における共通管理</li> </ul> </li> <li>（3） J G A P 総合規則 <ul style="list-style-type: none"> <li>審査・認証について</li> <li>審査のタイミング、種類、有効期限、申込方法等</li> <li>消費者向け J G A P マークの表示</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ J G A P 指導員資格取得により単位取得とする。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講習実施機関が配付する資料。</li> </ul>		

科目名	農業経営力養成講座	担当教員	外部講師
対象年次	一年課程	開講時期	通年
必須・選択の分類	選択	専攻コース NO	—
授業方法	講義（一部演習を含む）	単位数	1
到達目標	<p>・現場で農業を実践する青年等農業者に求められる実践的な経営知識を習得する。</p>		
教育内容（授業内容）	<p>新規就農希望者、若手農業経営者、リーダー候補従業員等を対象とした、農業を実践するうえで求められる経営知識を、様々な専門家の講座により習得する。</p> <p>講座内容（変更の可能性あり）</p> <p>第1回 実践経営論  第2回 経営戦略Ⅰ  第3回 農業簿記基礎  第4回 先進農業者視察  第5回 情報発信手法  第6回 経営戦略Ⅱ  第7回 食品流通  第8回 DX（デジタルトランスフォーメーション）  第9回 労務管理  第10回 財務管理  第11回 経営戦略Ⅲ</p> <p>公募した一般農業者、みえ農業版MBA養成塾塾生とともに聴講する。  なお、受講者の講義や業務日程等にも配慮し、オンライン、オンデマンドでの受講も可とする。</p>		
成績評価の方法	<p>・レポート提出を課し、出席率を加味して総合的に判定する。</p>		
使用教材・教科書	<p>・担当講師（外部講師）が資料等を配付する。</p>		

## (オ) 専攻科目

## a 共通

科目名	専攻実習	担当教員	農業大学校（水田作専攻コース担当者、茶業専攻コース担当者、野菜専攻コース担当者、花き専攻コース担当者、果樹専攻コース担当者、畜産専攻コース担当者） 農業研究所 畜産研究所
対象年次	1, 2年生、一年課程	開講時期	通年
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	実習	単位数	二年課程：32、一年課程：16
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【水田作・野菜・花き・果樹専攻コース】基本的な栽培方法と生産物の販売方法等について、実践をととして習得する。</li> <li>・【茶業専攻コース】基本的な栽培方法と加工について、実践をととして習得する。</li> <li>・【畜産専攻コース】家畜の飼養管理、繁殖管理等について、実践をととして習得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<p>【水田作専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水稲、麦、大豆、露地野菜（キャベツ・ブロッコリー）の基本的栽培技術及び出荷販売。</li> </ul> <p>【茶業コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間の茶園管理と摘採、製茶加工と再製加工、茶園の新植・改植、機械装置の点検・操作・清掃。</li> </ul> <p>【野菜専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 野菜経営計画の樹立、露地及び施設野菜の栽培管理技術、生産物の収穫調整と出荷販売。</li> </ul> <p>【花き専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 花き類栽培管理技術、生産物の収穫調整と出荷販売。</li> </ul> <p>【果樹専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 果樹（ナシ、カキ、カンキツ、ブドウ、ウメ等）の基本的な栽培管理、収穫物の調整、出荷技術、生育調査、果実品質調査。</li> </ul> <p>【畜産専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家畜（乳牛、肉牛、豚、鶏など）の飼養管理（飼料給与、搾乳、集卵、ふん尿処理）、各家畜の繁殖管理（種付け、分娩、孵卵、育成）飼料作物の栽培、収穫、調製。</li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業大学校実践園場、畜産研究所の各家畜、畜舎、ふん尿処理施設、茶業研究室ほ場等を使用する。</li> </ul>		

科目名	産地実習	担当教員	農業大学校（水田作専攻コース担当者、茶業専攻コース担当者、野菜専攻コース担当者、花き専攻コース担当者、果樹専攻コース担当者、畜産専攻コース担当者）
対象年次	1, 2年生、一年課程	開講時期	通年
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	実習	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内または県外の優良な経営体の実態について調査し、経営能力を高める。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<p>【水田作専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内外の優良経営体、資材開発現場などの視察により、経営手法、産地形成および技術開発の手法等を学習する。</li> <li>（大規模経営体事例、集落営農組織事例、農業資材・機械の開発生産事例〔肥料・農薬等〕等）</li> </ul> <p>【茶業専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内外茶産地の経営体・市場等の実態調査、品評会等への参加。</li> </ul> <p>【野菜専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営体及び産地の実態調査、市場性の調査。</li> </ul> <p>【花き専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営体の実態調査、市場性の調査。</li> </ul> <p>【果樹専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内果樹産地の実態調査、栽培管理実習、生産者大会等への参加。</li> </ul> <p>【畜産専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各畜種（酪農、肉牛、養豚、養鶏）の産地、先進的農家あるいは公的機関等を見聞し、その指導者や経営者との意見交換を行う。</li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント等を配付</li> </ul>		

科目名	農家実習	担当教員	派遣先農家
対象年次	1年生、2年生、一年課程	開講時期	1年生：2期 2年生、一年課程：1期及び2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	実習	単位数	8
到達目標	<p>・先進農家において、実際の農業経営及び農家生活を体験し、農業経営者として必要な技術、経営管理能力を習得する。</p>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二年課程1年次は、2期に5日間の実習を実施する。</li> <li>・二年課程2年次は、先進農家で約35日間の実習を実施する。</li> <li>・一年課程は、先進農家で約40日間の実習を実施する。</li> </ul> <p>【水田専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣先農家について実際の農作業を体験させ、派遣先農家との対話を通じて、農業経営者として必要な技術、経営管理能力の習得に資する。（水稲、小麦、大豆等の栽培技術、土地利用型農業の経営方法）</li> </ul> <p>【茶業専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣先農家について実際の農作業を体験させ、派遣先農家との対話を通じて、農業経営者として必要な技術、経営管理能力の習得に資する。</li> </ul> <p>【野菜専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣先農家について実際の農作業を体験させ、派遣先農家との対話を通じて、農業経営者として必要な技術、経営管理能力の習得に資する。</li> </ul> <p>【花き専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣先農家について実際の農作業を体験させ、派遣先農家との対話を通じて、農業経営者として必要な技術、経営管理能力の習得に資する。</li> </ul> <p>【果樹専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣先農家について実際の農作業を体験させ、派遣先農家との対話を通じて、農業経営者として必要な技術、経営管理能力の習得に資する。</li> </ul> <p>【畜産専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣先農家について実際の農作業を体験させ、派遣先農家との対話を通じて、農業経営者として必要な技術、経営管理能力の習得に資する。（酪農、肉牛、養豚、養鶏の家畜の飼養管理、繁殖管理、衛生管理等）</li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント等を配付</li> </ul>		

科目名	専攻実験	担当教員	農業大学校（水田作専攻コース担当者、茶業専攻コース担当者、野菜専攻コース担当者、花き専攻コース担当者、果樹専攻コース担当者、畜産専攻コース担当者） 農業研究所 畜産研究所
対象年次	2年生	開講時期	専攻実習時間内で実施
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	実験	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物体や病害虫を観察し、基本的な診断技術を習得する。</li> <li>・畜産に関する測定、分析、観察手技と家畜の保定方法等を習得する。</li> <li>・牛の繁殖管理方法を習得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<p>【水田作専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・稲、麦、大豆に関する基本的な実験を行い、診断技術を習得する。（水稲診断技術の例：苗の診断技術、生育期の診断技術、幼穂形成期の診断技術、収量構成要素の分析、土壌診断技術）</li> </ul> <p>【茶業専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・茶樹の生育診断、病害虫の発生調査と被害解析、茶の官能審査と近赤外線分析、簡易な土壌診断。</li> </ul> <p>【野菜専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜の生育診断、イチゴの花芽分化検鏡、土壌診断技術、施設内環境調査法。（照度、温度など）</li> </ul> <p>【花き専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・植物調整剤の利用技術、花きの生育と照度の関係、花き類に関する用土の検討と土壌診断技術。</li> </ul> <p>【果樹専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・植物成長調整剤の利用技術、病害虫の被害解析、果実の品質調査、果実の加工。</li> </ul> <p>【畜産専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・牛、豚の体重測定、測尺、牛の繁殖管理、鶏の卵重、卵殻強度、ハウユニットの測定、家畜の飼料給与量、採食量の調査、飼料の一般成分の分析、サイレージの有機酸の定量（品質評価）、土壌診断。</li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント等を配付</li> </ul>		

科目名	課題解決演習 (プロジェクト学習)	担当教員	農業大学校(水田作専攻コース担当者、茶業専攻 コース担当者、野菜専攻コース担当者、花き専攻 コース担当者、果樹専攻コース担当者、畜産専攻 コース担当者) 畜産研究所
対象年次	2年生、一年課程	開講時期	2年生1期、2期、 一年課程2期、3期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	演習	単位数	二年課程：3、一年課程：1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻学習を通じて一人一人が課題を持ち、創意工夫を生かして調査研究を行い、結果の評価を行うことにより問題解決能力を養う。</li> </ul>		
教育内容(授業内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の実習の中で課題を解決するよう取り組み、成果としてまとめる。</li> <li>・二年課程は2年生の9月末に成果を発表する。</li> <li>・一年課程は2月末に取組み成果を発表する。</li> </ul> <p>【水田作専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻学習を通じて学習した水田作経営上の課題を解決するために調査研究を行う。</li> </ul> <p>【茶業専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻学習を通じて明確になった茶業経営上の課題を解決するために調査研究を行う。</li> </ul> <p>【野菜専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻学習を通じて明確になった野菜経営上の課題を解決するために調査研究を行う。</li> </ul> <p>【花き専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻実習等を通じて学習した花き経営上の課題を解決するため調査研究を行う。</li> </ul> <p>【果樹専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻学習を通じて明確になった果樹経営上の課題を解決するために調査研究を行う。</li> </ul> <p>【畜産専攻コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各畜種における技術あるいは経営上問題となるテーマについて、それを解決もしくは明確にするための調査研究を行う。</li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント等を配付</li> </ul>		

科目名	卒業論文	担当教員	農業大学校（水田作専攻コース担当者、茶業専攻コース担当者、野菜専攻コース担当者、花き専攻コース担当者、果樹専攻コース担当者、畜産専攻コース担当者） 畜産研究所
対象年次	2年生	開講時期	2期、3期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	—
授業方法	演習	単位数	10
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年間の学習の統括として、専攻学習等を通じて習得した専門的な知識や技術等を卒業論文としてまとめることができる。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業大学校の2年間で学んだ専門的な知識や技術等を卒業論文としてまとめる。</li> <li>・課題は次のいずれかとし、2年生の2月末に発表する。</li> <li> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の営農設計を作成し、取りまとめたもの。</li> <li>・課題解決演習で実施した調査研究を継続調査し、営農設計を含めて取りまとめたもの。</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント等を配付</li> </ul>		

b 水田作コース

科目名	稲作技術	担当教員	農業大学校 (水田作専攻コース担当者)
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	2期、3期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 1、2、3
授業方法	講義	単位数	3
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲作の基本栽培技術や知識を習得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の稲作について、専攻実習と対比しながら実践的な栽培管理ができるような講義とする。</li> <li>・学生との対話を重視し、理解度に応じ講義を展開することとする。</li> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1、2限 品種の作付け動向、奨励品種制度、米の品質と食味</li> <li>第3、4限 育苗、耕起・代かき、移植</li> <li>第5、6限 水管理、水稲作におけるスマート化について</li> <li>第7、8限 主要雑草・病害虫の特長と防除のポイント、小テスト</li> <li>第9、10限 肥培管理、収穫、乾燥・調整</li> <li>第11、12限 水稲作における農薬適正使用</li> <li>第13、14限 年間水稲栽培スケジュールを作成してみよう（ワークショップ）</li> <li>第15、16限 IPM、小テスト</li> <li>第17、18限 生育診断、生育・収量調査</li> <li>第19、20限 植物防疫研修会に出席</li> <li>第21、22限 県内での水稲作における課題について</li> <li>第23、24限 とりまとめ試験</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・4回に1度を目安として小テストを、最後にとりまとめ試験を実施する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米に関する資料（三重県農林水産部農産園芸課）</li> <li>・「新版作物栽培の基礎」（農山漁村文化協会）</li> <li>・プリント等を配付</li> </ul>		

科目名	麦作技術	担当教員	農業大学校 (水田作専攻コース担当者)
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	3期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 4
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の麦作の現状を把握し、麦類（小麦・大麦）の基本的な栽培技術を習得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・麦類（小麦・大麦）の基本的な栽培技術と特徴について講義する。</li> <li>・本県における麦類（小麦・大麦）の生産・流通の現状と課題について講義する。</li> <li>・質問と対話を通じ学生の学習意欲を引き出しながら、知識の習得だけでなく実践的な技術を身につける。</li> </ul> <p>・授業計画</p> <p>第1、2限 麦の種類と小麦・大麦品種の特徴</p> <p>第3限 麦類（小麦・大麦）の品質と流通</p> <p>第4～7限 麦類（小麦・大麦）の基本栽培技術</p> <p>第8限 試験</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新版作物栽培の基礎」（農山漁村文化協会）</li> <li>・麦に関する資料（三重県農林水産部農産園芸課）</li> <li>・プリント等を配付</li> </ul>		

科目名	大豆作技術	担当教員	農業大学校 (水田作専攻コース担当者)
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	3期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 5
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の大豆作の現状を把握し、水田転換畑における大豆栽培の基本技術を習得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水田転換畑における大豆生産の課題を解説する。</li> <li>・大豆の基本的な栽培技術と特徴について講義する。</li> <li>・本県における大豆生産、および流通の現状と課題について講義する。</li> <li>・質問と対話を通じ学生の学習意欲を引き出しながら、知識の習得だけでなく実践的な技術を身につける。</li> </ul> <p>・授業計画</p> <p>第1限 大豆の生態と種類</p> <p>第2限 //</p> <p>第3限 大豆の基本栽培技術</p> <p>第4限 //</p> <p>第5限 三重県における大豆生産の現状と課題</p> <p>第6限 //</p> <p>第7限 試験</p> <p>第8限 //</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新版作物栽培の基礎」（農山漁村文化協会）</li> <li>・大豆に関する資料（三重県農林水産部農産園芸課）</li> <li>・プリント等を配付</li> </ul>		

科目名	多様な水田作物	担当教員	農業大学校 (水田作専攻コース担当者)
対象年次	2年生、一年課程	開講時期	1期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 6
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 稲・麦・大豆以外の水田を利用した作物生産について解説し、水田の多様な利用方法を理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水田で作付される、飼料用イネや主要露地野菜（キャベツ・ブロッコリー）の基本的な栽培技術や生産・流通の現状について講義する。</li> <li>・ 生産量が少なく、市場流通しにくい地域特産品（マイナークロップ）や雑穀類について講義する。</li> <li>・ 質問と対話を通じて学生の経験談等も引き出しながら、知識の習得だけでなく実践的な栽培技術を身につける。</li> </ul> <p>・ 授業計画</p> <p>第1限 飼料用イネ（イネ W.C.S、飼料米）の栽培技術と生産流通の現状</p> <p>第2限 //</p> <p>第3限 露地野菜（キャベツ・ブロッコリー）の栽培技術と生産・流通の現状</p> <p>第4限 //</p> <p>第5限 雑穀類（ソバ、マコモ、黒大豆等含む）の栽培技術と生産・流通の現状</p> <p>第6限 //</p> <p>第7限 試験</p> <p>第8限 //</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プリント等を配付</li> </ul>		

科目名	水田農業の低コスト技術	担当教員	農業大学校 (水田作専攻コース担当者)
対象年次	2年生、一年課程	開講時期	1、2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 7、8
授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<p>・専攻1～5で学んだ基本技術を基礎として、様々な地域状況や時代背景に合致した応用技術を習得する。特に専攻7では三重県水田農業の課題背景に合致した現場で実践されている対策技術や先端技術などを取りあげる。また専攻8においては農業研究所等で開発途中の技術や取り組み課題を素材に議論し、問題解決能力を高める。</p>		
教育内容（授業内容）	<p>・授業計画</p> <p>第1限 水稲の省力施肥技術・移植技術</p> <p>第2限 //</p> <p>第3限 水稲の直播栽培</p> <p>第4限 //</p> <p>第5限 雑草・病害虫防除（水田編）</p> <p>第6限 //</p> <p>第7限 雑草・病害虫防除（畑作編）</p> <p>第8限 //</p> <p>第9限 試験研究中の課題と対応技術</p> <p>第10限 //</p> <p>第11限 大豆栽培の省力・低コスト技術</p> <p>第12限 //</p> <p>第13限 小麦栽培の省力・低コスト技術</p> <p>第14限 //</p> <p>第15限 試験</p> <p>第16限 //</p>		
成績評価の方法	<p>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</p>		
使用教材・教科書	<p>・プリント等を配付</p>		

科目名	農産物流通論	担当教員	農業大学校 (水田作専攻コース担当者)
対象年次	2年生、一年課程	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 9
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<p>・穀類を中心とした農産物流通を把握し、大規模・低コスト生産の流通だけでなく直売などの販売方法に対応できる知識を習得する。</p>		
教育内容（授業内容）	<p>・イネ、ムギ、ダイズを中心とした農産物流通の現状と転作の補助制度について説明する。さらに、安全・安心な消費者ニーズの高まりのなか、米の流通・販売に関する国や県の諸制度を理解させ、「米を如何に生産、流通・販売したら良いか」を考え、目標とする稲作経営の参考とさせる。</p> <p>・授業計画</p> <p>第1限 米の生産調整の歴史、補助金制度のしくみについて</p> <p>第2限 //</p> <p>第3限 農産物販売時の表示方法、みえの安心食材、JAS有機認証等の制度説明</p> <p>第4限 //</p> <p>第5限 大規模流通と地域流通、6次産業化について</p> <p>第6限 //</p> <p>第7限 試験</p> <p>第8限 //</p>		
成績評価の方法	<p>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</p>		
使用教材・教科書	<p>・有機農業の現状と課題、特別栽培農産物に係る表示ガイドライン、総合的病害虫・雑草管理実施指針、GAP手法導入マニュアル（農林水産省）</p> <p>・三重県における持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針</p> <p>・プリント等を配布</p>		

科目名	農村社会論	担当教員	農業大学校 (水田作専攻コース担当者)
対象年次	2年生、一年課程	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻10
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農村社会の特徴について解説し、農村地域における経営のあり方を理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出合い作業や寄り合いなど農業経営体と地域のかかわりなど、農村社会の特徴について解説する。 また、農業経営の種々の形態について学ぶとともに、地域住民と協調しながら農業を営む方法を理解させる。</li> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 水田農業と農村社会</li> <li>第2限 農村社会における経営【事例研究】</li> <li>第3限 農業経営の形態【意見交換】</li> <li>第4限 //</li> <li>第5限 自分の経営を考える</li> <li>第6限 //</li> <li>第7限 試験</li> <li>第8限 //</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント等を配付</li> </ul>		

c 茶業コース

科目名	茶栽培各論 I	担当教員	農業大学校 (茶業専攻コース担当者)
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	2期, 3期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 1、2、3
授業方法	講義	単位数	3
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県で生産されている煎茶、かぶせ茶および深蒸し茶を中心に、それぞれの茶種の栽培管理方法の相違点を理解するとともに、育苗、茶園の新・改植の方法および1年間の栽培管理技術を習得する。</li> <li>・収量構成要素を理解し、整せん枝による収量・品質のコントロール技術を習得させ、茶業経営の基礎を養う。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書と適宜配布する資料にそって講義形式で行うが、質問、対話を織りまぜながら、理解度に応じて展開する。</li> </ul> <p>専攻1 本県で生産される茶種の特徴と各茶種の栽培管理 (全8限) 内容：本県で生産される茶種と生産地域 煎茶の栽培 かぶせ茶の栽培 深蒸し茶の栽培 その他の茶の栽培</p> <p>専攻2 年間の基本的栽培管理と新・改植方法 (全8限) 内容：1月～12月の茶園管理 さし木育苗と新・改植方法 品種の特性と組み合わせ方</p> <p>専攻3 収量・品質と摘採・整せん枝の関係 (全8限) 内容：収量構成要素 摘採・整せん枝の時期、深さと茶芽の生育 摘採・整せん枝と収量・品質</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・各内容の「課題レポート」の内容を評価し、総合的に判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茶生産指導指針 H27.08 版（静岡県経済農業協同組合連合会）</li> <li>・「茶園管理実践参考書」 三重県中央農業改良普及センター</li> <li>・「茶園管理12ヶ月」（農山漁村文化協会）</li> <li>・「茶の品種」（静岡県茶業会議所）</li> </ul>		

科目名	茶栽培各論Ⅱ	担当教員	農業大学校 (茶業専攻コース担当者)
対象年次	1, 2年生、一年課程	開講時期	1期、3期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 4、5、6
授業方法	講義	単位数	3
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茶園からの収穫物の価値（収量×価格）を最大化するために管理が必要な栽培環境（土壌施肥、病害虫、気象）について理解し、合理的な施肥管理技術、病害虫防除技術、気象災害防止技術を習得する。</li> <li>・最近の栽培研究成果の読み方と各自の茶業経営の課題解決に活用する方法を習得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書と適宜配布する資料にそって講義形式で行うが、質問、対話を織りまぜながら、理解度に応じて展開する。</li> </ul> <p>専攻4 茶園土壌と施肥管理 (全8限) 内容：茶園の土壌診断と施肥管理 施肥管理と収量・品質の関係 機能性肥料の特性と省力・低コスト施肥技術 環境にやさしい施肥技術</p> <p>専攻5 気象災害の防止および研究成果の活用 (全8限) 内容：気象災害（晩霜害、干ばつ害）の発生メカニズムとその防止 栽培研究成果の読み方とその活用方法</p> <p>専攻6 病害虫防除 (全8限) 内容：茶園における病害虫の発生特性とその予察 病害虫管理と収量・品質の関係 新農薬の特性と省力・低コスト防除技術 環境にやさしい病害虫防除技術</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・各内容の「課題レポート」の内容を評価し、総合的に判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茶生産指導指針 H27.08 版（静岡県経済農業協同組合連合会）</li> <li>・「茶園管理実践参考書」（三重県中央農業改良普及センター）</li> <li>・「茶園管理12ヶ月」（農山漁村文化協会）</li> <li>・「新改訂版・目で見える茶の病害虫」（静岡県茶業会議所）</li> <li>・国および各県の茶業研究成果</li> </ul>		

科目名	茶利用加工各論 I	担当教員	農業大学校 (茶業専攻コース担当者)
対象年次	2年生、一年課程	開講時期	1期、2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 7、8
授業方法	講義・実習	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県で生産されている煎茶、かぶせ茶および深蒸し茶を中心に、茶種・茶期ごとの製茶方法の違いを理解するとともに、基本的な製茶技術を習得する。</li> <li>・茶種ごとの官能品質の違いを理解させ、各茶種・茶期ごとの官能による品質審査技術を習得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製茶は茶工場で講義と実習を組み合わせた方法で行い、生葉から乾燥工程までを各自が少量製茶機を使って実際に加工して試みることから始める。実際の製茶体験を通じて各製茶行程の役割、勘どころを習得させる。</li> <li>・荒茶の品質評価は実際に各種の荒茶の官能審査を体験しながら配布資料にそって展開する。</li> </ul> <p>専攻7 製茶加工の基本と勘どころ (全8限) 内容：各製茶行程の役割としくみ 各製茶行程の勘どころ 各茶種の製茶加工技術</p> <p>専攻8 荒茶の品質審査技術 (全8限) 内容：茶種ごとの官能品質の特徴 茶種ごとの官能による品質審査 近赤外線を利用した品質評価方法</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・各内容の理解度と技術習得度を評価し、総合的に判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茶生産指導指針 H27.08 版（静岡県経済農業協同組合連合会）</li> <li>・「機械製茶の理論と実際」（農山漁村文化協会）</li> </ul>		

科目名	茶利用加工各論Ⅱ	担当教員	農業大学校 (茶業専攻コース担当者)
対象年次	2年生、一年課程	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須	専攻コースNO	専攻 9、10
授業方法	講義・実習	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒茶の品質に応じた再製・火入れの仕上げ加工技術を習得する。</li> <li>・また、仕上げ加工した茶を製品化する際、その表示方法や茶の持つ機能性を習得し、実際の販売体験に活かす。</li> <li>・製茶工場の建設および操業にかかるコスト算出について理解するとともに、荒茶の流通販売の仕組みと多様な直接販売の方法について理解させ、茶業の経営感覚を養う。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻9は、教科書と適宜配布する資料にそって講義形式で行うが、質問、対話を織り混ぜながら、理解度に応じて展開する。</li> </ul> <p>専攻9 荒茶の再製加工の基本と機能性及び表示について (全8限) 内容：篩（ふるい）の役割と再製のしくみ 自動再製機の使い方と手再製の方法 火入れのしくみと方法 茶種・茶期のちがう荒茶の仕上げ方法 茶の機能性と表示制度について</p> <p>専攻10 茶業の営農計画の立て方 (全8限) 内容：経営基盤と資本装備の設定 茶生産と販売計画 栽培と労働計画 経営収支計画</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・各内容の「課題レポート」の内容を評価し、技術習得度を加味して総合的に判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茶生産指導指針 H27.08 版（静岡県経済農業協同組合連合会）</li> <li>・「茶工場経営の合理化を目指して」（三重県中央農業改良普及センター）</li> </ul>		

d 野菜コース

科目名	果菜類 I	担当教員	農業大学校 (野菜専攻コース担当者)
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	2期、3期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 1、2、3、4
授業方法	講義	単位数	4
到達目標	<p>・主要果菜類（トマト、キュウリ、イチゴ）の生理生態と栽培技術について学習し、県内産地の実態および抱える課題とその対策について考える。また、先進地事例および最先端技術等を紹介し、果菜類の現状と課題について習得する。</p>		
教育内容（授業内容）	<p>・授業計画</p> <p>第1、2限 トマトの生理生態的特性  第3、4限 キュウリの生理生態的特性  第5、6限 イチゴの生理生態とそれにもとづいた栽培管理技術  第7、8限 トマトの作型と品種の特徴、動向  第9、10限 キュウリの作型と品種の特徴、動向  第11、12限 イチゴの作型と品種の特徴、動向  第13、14限 トマトの経営分析  第15、16限 キュウリの経営分析  第17、18限 県内のイチゴ栽培の動向及び課題と解決法  第19、20限 トマトの新技術の解析  第21、22限 キュウリの新技術の解析  第23、24限 イチゴの高設栽培と経営に関する考え方  第25、26限 トマトの県内主要産地の動向および課題と解決方法  第27、28限 キュウリの県内主要産地の動向および課題と解決方法  第29、30限 トマト、キュウリの試験  第31、32限 イチゴの試験</p>		
成績評価の方法	<p>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。  ・試験結果が60点未満の者は再試験（80点以上合格）及びレポート提出を課す。</p>		
使用教材・教科書	<p>・「野菜園芸ハンドブック」（株式会社養賢堂）</p>		

科目名	葉茎菜類	担当教員	農業大学校 (野菜専攻コース担当者)
対象年次	1, 2年生、一年課程	開講時期	1期、3期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 5、6
授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<p>・葉茎菜類の生理生態と栽培技術について学習し、県内産地の実態および抱える課題とその対策について考える。また、先進地事例および最先端技術等を紹介し、葉茎菜類の現状と課題について習得する。</p>		
教育内容（授業内容）	<p>・授業計画</p> <p>第1、2限 スイートコーン・ホウレンソウにおける生理生態的特性と栽培管理の要点</p> <p>第3、4限 なばな・モロヘイヤにおける生理生態的特性と栽培管理の要点</p> <p>第5、6限 ネギ類における生理生態的特性と栽培管理の要点</p> <p>第7、8限 試験</p> <p>第9、10限 ハクサイ、レタスの生理生態的特性と栽培管理の要点</p> <p>第11、12限 キャベツの生理生態的特性と栽培管理の要点</p> <p>第13、14限 ブロッコリーの生理生態的特性と栽培管理の要点</p> <p>第15、16限 試験</p>		
成績評価の方法	<p>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</p> <p>・試験結果が60点未満の者は再試験（80点以上合格）及びレポート提出を課す。</p>		
使用教材・教科書	<p>・「野菜園芸ハンドブック」（株式会社養賢堂）</p>		

科目名	果菜類Ⅱ	担当教員	農業大学校 (野菜専攻コース担当者)
対象年次	2年生、一年課程	開講時期	1期、2期
必須・選択の分類	必須	専攻コースNO	専攻 7、8
授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養液栽培の変遷および方式の種類とその特徴について学習し、県内産地の実態および抱える課題とその対策について考える。また先進地事例および最先端技術等を紹介し、養液栽培の現状と課題について習得する。</li> <li>・トマト、キュウリ、イチゴ以外の果菜類と豆類についての生理生態と栽培技術について習得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1、2限 養液栽培の変遷、養液栽培方式の種類</li> <li>第3、4限 養液栽培の特質と利用</li> <li>第5、6限 培養液の組成と調整</li> <li>第7、8限 主要野菜の養液栽培の要点</li> <li>第9、10限 県内養液栽培の動向および課題と解決方法</li> <li>第11、12限 スイカ、ナス、メロンの生理生態と栽培技術</li> <li>第13、14限 豆類の生理生態と栽培技術</li> <li>第15、16限 試験</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・試験結果が60点未満の者は再試験（80点以上合格）及びレポート提出を課す。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「野菜園芸ハンドブック」（株式会社養賢堂）</li> </ul>		

科目名	根菜・いも類	担当教員	農業大学校 (野菜専攻コース担当者)
対象年次	2年生、一年課程	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 9、10
授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<p>・根菜、いも類の生理生態と栽培技術について学習し、県内産地の実態および抱える課題とその対策について考える。また、先進地事例および最先端技術を紹介し、根菜・いも類の現状と課題について習得する。</p>		
教育内容（授業内容）	<p>・授業計画</p> <p>第1、2限 サトイモ、ヤマノイモの生理生態的特性と栽培管理の要点</p> <p>第3、4限 ジャガイモの生理生態的特性と栽培管理の要点</p> <p>第5、6限 サツマイモの生理生態的特性と栽培管理の要点</p> <p>第7、8限 いも類試験</p> <p>第9、10限 ダイコンの生理生態的特性と栽培管理の要点</p> <p>第11、12限 カブ・ニンジン等の生理生態的特性と栽培管理の要点</p> <p>第13、14限 県内産地の動向および課題と解決方法</p> <p>第15、16限 根菜類の試験</p>		
成績評価の方法	<p>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</p> <p>・試験結果が60点未満の者は再試験（80点以上合格）及びレポート提出を課す。</p>		
使用教材・教科書	<p>・「野菜園芸ハンドブック」（株式会社養賢堂）</p>		

e 花きコース

科目名	切花	担当教員	農業大学校 (花き専攻コース担当者)
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 1、2
授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切り花の種類を知り、その栽培法を理解することにより、切り花生産の方法を習得する。</li> <li>・主な切り花の経営概要を理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 ガイダンス、切り花の概論</li> <li>第2限 "</li> <li>第3限 切り花経営における農業生産工程管理について</li> <li>第4限 "</li> <li>第5限 "</li> <li>第6限 "</li> <li>第7限 試験</li> <li>第8限 "</li> <li>第9限 } 代表的な切り花の栽培管理について</li> <li>第10限 } (キク、バラ、ストック、トルコギキョウ、スターチス ガーベラなど)</li> <li>第11限 }</li> <li>第12限 }</li> <li>第13限 } 主な切り花の経営概要について</li> <li>第14限</li> <li>第15限 試験</li> <li>第16限 "</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント等を配付</li> <li>・「草花栽培の基礎」(農山漁村文化協会)</li> </ul>		

科目名	鉢花	担当教員	農業大学校 (花き専攻コース担当者)
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	2期、3期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 3、4
授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉢花の種類を知り、その栽培法を理解することにより、鉢花生産の方法を習得する。</li> <li>・主な鉢花の経営概要を理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 ガイダンス、鉢花の概論</li> <li>第2限 "</li> <li>第3限</li> <li>第4限</li> <li>第5限</li> <li>第6限</li> <li>第7限</li> <li>第8限</li> <li>第9限</li> <li>第10限</li> <li>第11限</li> <li>第12限</li> </ul> </li> <li>代表的な鉢花の来歴、増殖法管理方法等 (シクラメン、ポインセチア、ハイドラングア、サイネリアなど)</li> <li>第13限 主な鉢花の経営概要について</li> <li>第14限</li> <li>第15限 試験</li> <li>第16限 "</li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント等を配付</li> <li>・「草花栽培の基礎」(農山漁村文化協会)</li> </ul>		

科目名	観葉植物	担当教員	農業大学校 (花き専攻コース担当者)
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	3期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 5
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観葉植物の種類を知り、その栽培法を理解することにより、観葉植物生産の方法を習得する。</li> <li>・主な観葉植物の経営概要を理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 ガイダンス、観葉植物の概論</li> <li>第2限 "</li> <li>第3限 }</li> <li>第4限 } 代表的な観葉植物の来歴、増殖法、管理方法、経営概要等</li> <li>第5限 } (ポトス、スパティフィラム、アナス類 など)</li> <li>第6限 }</li> <li>第7限 試験</li> <li>第8限 "</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・出席率、授業態度、小レポートの内容等を加味して、総合的に判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント等を配付</li> <li>・「草花栽培の基礎」(農山漁村文化協会)</li> </ul>		

科目名	花壇苗	担当教員	農業大学校 (花き専攻コース担当者)
対象年次	2年生、一年課程	開講時期	1期
必須・選択の分類	必須	専攻コースNO	専攻 6、7
授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花壇苗の種類を知り、その栽培法を理解することにより、花壇苗生産の方法を習得する。</li> <li>・主な花壇苗の経営概要を理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 野菜苗の概論</li> <li>第2限 //</li> <li>第3限 野菜苗経営における農業生産工程管理について</li> <li>第4限 //</li> <li>第5限 野菜苗の作型、管理方法等 //</li> <li>第6限 //</li> <li>第7限 //</li> <li>第8限 //</li> <li>第9限 花壇苗の概論</li> <li>第10限 //</li> <li>第11限 代表的な花壇苗の作型、管理方法等（パンジー、ビオラ、ペチュニア、ジニアなど）</li> <li>第12限 //</li> <li>第13限 主な花壇苗の経営概要について //</li> <li>第14限 //</li> <li>第15限 試験</li> <li>第16限 //</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントを配付</li> <li>・「草花栽培の基礎」（農山漁村文化協会）</li> <li>・「野菜栽培の基礎」（農山漁村文化協会）</li> </ul>		

科目名	洋らん	担当教員	農業大学校 (花き専攻コース担当者)
対象年次	2年生、一年課程	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 8
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種洋らんの原産地と生理生態、栽培技術、経営上の特性等について理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>洋らんの栽培技術と経営について習得する。</li> <li>授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 洋らんの種類と原産地</li> <li>第2限 "</li> <li>第3限 }</li> <li>第4限 } 代表的な洋らんの来歴、増殖法、管理方法、経営概要等</li> <li>第5限 } (シンビジウム、ファレノプシス、デンドロビウム など)</li> <li>第6限 }</li> <li>第7限 試験</li> <li>第8限 "</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>プリント等を配付</li> <li>「草花栽培の基礎」 (農山漁村文化協会)</li> </ul>		

科目名	花木・造園	担当教員	農業大学校 (花き専攻コース担当者) 外部講師
対象年次	2年生、一年課程	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 9、10
授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種花木の生理生態と栽培技術・経営について学習し、その主要な利用法である造園について造詣を深める。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三重サツキを中心に、各種花木の栽培技術と経営について習得する。</li> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 三重県の特産花木</li> <li>第2限 //</li> <li>第3限 各種花木の特徴と作型</li> <li>第4限 //</li> <li>第5限 各種花木の繁殖と栽培技術</li> <li>第6限 //</li> <li>第7限 花木試験</li> <li>第8限 //</li> <li>第9限 造園の様式の発達</li> <li>第10限 //</li> <li>第11限 造園施工と景観形成材料</li> <li>第12限 //</li> <li>第13限 造園設計の実際（演習）と積算</li> <li>第14限 //</li> <li>第15限 ビデオによる造園作品視聴</li> <li>第16限 //</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花木、造園それぞれで試験を実施し、平均点で評価する。</li> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント等を配付</li> </ul>		

f 果樹コース

科目名	果樹総論	担当教員	農業大学校 (果樹専攻コース担当者)
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 1、2
授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 果樹の基本的な生理、生態について理解する。</li> <li>・ 果樹栽培全般に関する基本的な知識を習得する。</li> <li>・ 栽培知識を応用した過去のプロジェクト課題を学習し、理解を深める。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<p>・ 園芸概論（果樹）で学んだ基礎知識を元に、果樹に共通した生理、専門用語の意味や栽培技術等について、更に深く掘り下げて理解を深める。</p> <p>・ 本校の過去のプロジェクト課題等の事例を学習し、その中で基本知識や栽培技術が応用されていることを明らかにし、学んだ知識の理解を深める。</p> <p>1. 果樹栽培の基礎的知識の理解 （8限）</p> <p>（1）果樹の種類</p> <p>（2）果樹の生産と消費</p> <p>（3）果樹の成長と果実生産</p> <p>（4）花・果実のしくみと発達</p> <p>（5）枝の成長と整枝・剪定</p> <p>（6）基本になる栽培管理技術</p> <p>（7）土壌管理とかん水、施肥</p> <p>（8）苗木の生産と果樹園の開設</p> <p>（9）施設栽培・高品質果栽培</p> <p>（10）貯蔵・加工の基礎</p> <p>2. 過去のプロジェクト課題学習等を教材とした学習 （8限）</p> <p>（1）ナシ</p> <p>（2）ブドウ</p> <p>（3）カンキツ</p> <p>（4）その他果樹</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・ 全講義終了後、講義内容から試験を実施する。なお、記述試験を基本とする。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「果樹栽培の基礎」 農山漁村文化協会発行</li> <li>・ プリント等を配付（過去のプロジェクト課題要旨等）</li> </ul>		

科目名	果樹各論Ⅰ	担当教員	農業大学校 (果樹専攻コース担当者)
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	2期、3期
必須・選択の分類	必須	専攻コースNO	専攻 3、4、5
授業方法	講義	単位数	3
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県における主要落葉果樹であるナシ、カキ、ブドウについて、樹種別に専門的な知識を習得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の主要落葉果樹であるナシ、カキ、ブドウについて、樹種別に特徴や生理、主な産地、品種ならびに、基本的な栽培管理技術、病虫害防除や施肥、出荷、流通等について解説する。</li> <li>・講義は各樹種につき4時間×4回、計48時間とし、テキストに加えて、図表、プリント等を適宜配布する。</li> </ul> <p>(ナシ、カキ、ブドウ、各8限 計24限)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概略 原産地、来歴、生産動向、適地</li> <li>2. 品種の特徴</li> <li>3. 生育と栽培管理 生育と管理、整枝・剪定、土壌管理と施肥、</li> <li>4. 施設栽培（カキは除く） 施設栽培のねらいと作型、生育の特徴、栽培管理</li> <li>5. 病虫害・生理障害 病虫害とその対策、生理障害とその対策、県内産地の防除基準等の解説</li> <li>6. 出荷と加工貯蔵 選果と出荷、貯蔵、加工</li> <li>7. 土壌管理とかん水、施肥 県内の施肥基準を中心に解説</li> <li>8. 経営の特性と改善</li> </ol>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・各果樹の講義終了後、講義内容から試験を実施する。なお、記述試験を基本とする。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「果樹栽培の基礎」 農山漁村文化協会発行</li> <li>・プリント等を配付</li> </ul>		

科目名	果樹各論Ⅱ	担当教員	農業大学校 (果樹専攻コース担当者)
対象年次	2年生、一年課程	開講時期	1期、2期
必須・選択の分類	必須	専攻コースNO	専攻 6、7、8
授業方法	講義	単位数	3
到達目標	<p>・県内における主要常緑果樹であるカンキツのほか、落葉果樹（ウメ、モモ）について、樹種別に専門的な知識を習得する。</p>		
教育内容（授業内容）	<p>・県内の主要常緑果樹である温州ミカンを中心とするカンキツ、および、落葉果樹のウメ、モモについて、樹種別に特徴や生理、主な産地、品種ならびに、基本的な栽培管理技術、病虫害防除や施肥、出荷、流通等について解説する。</p> <p>・講義は各樹種につき4時間×4回、計48時間とし、テキストに加えて、図表、プリント等を適宜配布する。</p> <p>（カンキツ、ウメ、モモ 各8限 計24限）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概略 原産地、来歴、生産動向、適地</li> <li>2. 品種の特徴</li> <li>3. 生育と栽培管理 生育と管理、整枝・剪定、土壌管理と施肥</li> <li>4. 施設栽培（ウメは除く） 施設栽培のねらいと作型、生育の特徴、栽培管理</li> <li>5. 病虫害・生理障害 病虫害とその対策、生理障害とその対策、県内産地の防除基準等の解説</li> <li>6. 出荷と加工貯蔵 選果と出荷、貯蔵、加工</li> <li>7. 土壌管理とかん水、施肥 県内の施肥基準を中心に解説</li> <li>8. 経営の特性と改善</li> </ol>		
成績評価の方法	<p>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</p> <p>・各果樹の講義終了後、講義内容から試験を実施する。</p>		
使用教材・教科書	<p>・「果樹栽培の基礎」 農山漁村文化協会発行</p> <p>・プリント等を配付</p>		

科目名	果樹経営	担当教員	農業大学校 (果樹専攻コース担当者)
対象年次	2年生、一年課程	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 9、10
授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<p>・県内各果樹の経営指標を素材に果樹の経営の特徴を学ぶとともに、果樹農業者の経営事例等を研究し、果樹経営を理解する。</p>		
教育内容（授業内容）	<p>・経営指標を素材に表計算ソフト（Excel）を使用し、経営収支の算出方法を学び、果樹経営の特徴を理解する。</p> <p>・過去の卒業論文ならびに先進農家の経営事例の研究を行い、自らの営農計画の樹立に必要な知識や手法を学ぶとともに、果樹農業経営の実際を学ぶ。</p> <p>1. 果樹の経営収支に関する研究（8限）</p> <p>（1）果樹経営における、労働配分と雇用労賃の算出</p> <p>（2）果樹経営に必要な、施設、機械と減価償却費等の算出</p> <p>（3）果樹経営における粗収益、経営費、農業所得、所得率の算出と評価</p> <p>（4）借入金とその返済計画の作成</p> <p>2. 果樹の経営事例および経営手法に関する研究（8限）</p> <p>（1）過去の卒業論文の事例研究</p> <p>（2）先進農家の経営事例の研究</p>		
成績評価の方法	<p>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</p> <p>・各講義終了後、講義内容から試験を実施する。</p>		
使用教材・教科書	<p>・プリント等を配付（県内果樹経営指標、過去の卒業論文要旨）</p> <p>・PCの表計算ソフトを使用</p>		

## g 畜産コース

科目名	家畜生理	担当教員	畜産研究所
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 1
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家畜を生産するために必要な家畜の生理機能について理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・牛、豚、鶏の解剖・組織学的構造と各機関の生理的機能について講義及び実習をする。</li> <li>・哺乳動物に必須の「泌乳」について、その発生や生理、構造などを講義する。</li> <li>・産卵鶏が産卵するための生理機能について講義する。</li> </ul> <p>・授業計画</p> <p>第1限 一般生理：ホルモン、血液、神経などの家畜生産に関する基本的知識</p> <p>第2限            "</p> <p>第3限            "</p> <p>第4限            "</p> <p>第5限 泌乳生理：ほ乳類と乳、動物の種類と乳房の進化、牛乳房の構造、成長にともなう乳腺構造の変化について</p> <p>第6限 泌乳生理：泌乳の成分と乳成分の生成、搾乳中の生理状態、泌乳期中の乳量・乳成分の変化（乳牛）、「初乳」について</p> <p>第7限 産卵生理：鶏の産卵の機序とその生理機能</p> <p>第8限            "</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・授業態度及び出席率を加味して評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般生理と家畜生理の専門書、農業技術体系、養鶏ハンドブックなどから抜粋又は参考にした自作テキスト</li> </ul>		

科目名	家畜衛生	担当教員	畜産研究所
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 2
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家畜に対する一般的な衛生知識と主な疾病の概要及び予防対策を理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳牛、肉牛、豚、鶏別の農家でよく見られる疾病の他、法定伝染病など県などと協力して対処が必要な疾病についての知識</li> <li>・疾病の治療法とその対処法に関する知識</li> <li>・以上の内容をビジュアル的に把握できるようにパワーポイントを用いて講義し、病気の体系については図書を用いての説明</li> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 一般衛生：防疫の原則、感染の機序</li> <li>第2限 //</li> <li>第3限 一般衛生：消毒、害虫駆除、予防接種</li> <li>第4限 //</li> <li>第5限 疾 病：農家でよく見られる家畜の疾病と法定伝染病</li> <li>第6限 //</li> <li>第7限 疾 病：疾病に対する対処と治療法</li> <li>第8限 //</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・第4限と第8限の講義終了時に筆記試験を行う。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家畜衛生学概論」や各種雑誌等から抜粋した資料</li> <li>・豚病カラーアトラス、鶏病カラーアトラス、牛病学、テレビドクター</li> </ul>		

科目名	飼料学	担当教員	畜産研究所
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	2期、3期
必須・選択の分類	必須	専攻コース N0	専攻3
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家畜飼料の種類、粗飼料生産についての基礎知識を理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家畜飼料の分類とその特性</li> <li>・家畜に必要な栄養を摂取させるための飼料原料の種類とその配合について</li> <li>・飼料作物の栽培と収穫調製・加工（青刈り、サイレージ、乾草）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 飼料の種類と特性：飼料の種類と特性</li> <li>第2限 //</li> <li>第3限 飼料配合：飼料の定義、家畜に必要な栄養</li> <li>第4限 //</li> <li>第5限 飼料配合：飼料安全法、飼料原料とその配合</li> <li>第6限 //</li> <li>第7限 飼料作物概論：飼料作物の定義、飼料作物の栽培・調製・加工（飼料作物概論）</li> <li>第8限 //</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・講義終了後、小試験を実施する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「基礎家畜飼養学」、「新編 畜産学概論」（養賢堂）</li> <li>・担当講師が作成した資料</li> </ul>		

科目名	家畜栄養	担当教員	畜産研究所
対象年次	1年生、一年課程	開講時期	3期
必須・選択の分類	必須	専攻コース N0	専攻4、5
授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家畜に必要な栄養素についての知識を習得する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家畜に必要な栄養素の種類とその機能、飼料の栄養価</li> <li>・家畜に対する一般的な栄養学と消化吸收機構</li> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1、2限 栄養素：飼料の分析</li> <li>第3、4限 栄養素：栄養素と飼料①</li> <li>第5、6限 栄養素：栄養素と飼料②</li> <li>第7、8限 栄養素：飼料の栄養価</li> <li>第9、10限 栄養素：栄養素 (炭水化物、タンパク質とアミノ酸、脂質、ビタミン、ミネラル、水)</li> <li>第11、12限 栄養生理：豚の消化生理</li> <li>第13、14限 栄養生理：牛の消化生理</li> <li>第15、16限 栄養生理：鶏の消化生理</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・試験（50%）と授業態度を含めた出席点（50%）で総合的に判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「基礎家畜飼養学」、「新編 家畜学概論」（養賢堂）</li> <li>・担当講師が作成した資料</li> </ul>		

科目名	家畜育種	担当教員	農業大学校（畜産専攻コース担当者） 畜産研究所
対象年次	2年生、一年課程	開講時期	1期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻 6
授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家畜の育種についての基礎知識と各家畜の育種方法の相違を理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝学の基礎知識と家畜育種（改良）</li> <li>・家畜の改良増殖と選抜</li> <li>・家畜の生産能力検定と乳牛、和牛、豚の登録審査</li> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1限 遺伝・育種素：遺伝の仕組みと遺伝子の作用</li> <li>第2限 //</li> <li>第3限 遺伝・育種素：家畜育種・改良、家畜の遺伝現象と遺伝力</li> <li>第4限 //</li> <li>第5限 選抜：各家畜の改良増殖目標、選抜方法</li> <li>第6限 //</li> <li>第7限 登録：能力検定、乳牛、和牛、豚の登録制度、登録審査</li> <li>第8限 //</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・講義終了後、小試験を実施する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「遺伝・育種」（担当講師が作成）</li> <li>・家畜人工授精講習会テキスト（家畜人工受精師協会）</li> </ul>		

科目名	飼養管理	担当教員	農業大学校（畜産専攻コース担当者） 畜産研究所
対象年次	2年生、一年課程	開講時期	1期、2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース NO	専攻7、8
授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家畜の飼養管理に必要な基礎知識を理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肉牛、乳牛、豚、鶏の飼養管理の実際</li> <li>・ふん尿処理に関する基礎知識</li> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1、2限 飼養管理（肉牛）： 肉牛の飼養管理①</li> <li>第3、4限 飼養管理（肉牛）： 肉牛の飼養管理②</li> <li>第5、6限 飼養管理（乳牛）： 乳牛飼養管理の実際について現場事例を含めながら講義①</li> <li>第7、8限 飼養管理（乳牛）： 乳牛飼養管理の実際について現場事例を含めながら講義②</li> <li>第9、10限 飼養管理（豚）： 豚の品種、繁殖、育成、飼料給与、衛生管理及び畜舎構造</li> <li>第11、12限 飼養管理（鶏）： 採卵鶏、肉用鶏（ブロイラー）の品種、育成方法、鶏舎管理、飼料給与</li> <li>第13、14限 飼養管理（環境対策）： 関係法規、堆肥化処理技術の基本、家畜ふん堆肥の特徴と施用、堆肥化施設</li> <li>第15、16限 飼養管理（環境対策）： 汚水処理技術の基本、汚水処理施設</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> <li>・小試験、簡単な設問（口頭）、レポート提出などを行うとともに、授業態度を加味し、総合的に判定する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図解畜産（農業図書社）</li> <li>・畜産環境アドバイザー養成研修資料（畜産環境整備機構）等から抜粋</li> </ul>		

科目名	家畜繁殖	担当教員	畜産研究所
対象年次	2年生、一年課程	開講時期	2期
必須・選択の分類	必須	専攻コース N0	専攻9、10
授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家畜の繁殖機能についての基礎知識を理解する。</li> </ul>		
教育内容（授業内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家畜の繁殖と生殖の仕組みおよび性ホルモンの生理的作用についての知識</li> <li>・受精の仕組みに関する基礎知識</li> <li>・精子の構造と生理機能に関する知識</li> <li>・家畜生産の現場、特に牛の繁殖においては人為的操作による交配、交雑が主体となっているので、雄と雌が交尾することはほとんどない。人為的繁殖操作による受胎性の向上を図る目的で配偶子の形成や性周期、発情発見などに関する基礎知識を習得する。家畜人工授精師の資格を取得しようとする学生はこれらの知識が必要である。</li> <li>・授業計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1、2限 繁殖生理：各家畜・家禽の繁殖関係臓器に関する解剖学的構造の講義と実物の観察</li> <li>第3、4限 繁殖生理：繁殖に関するホルモン群の生産、生理的作用についての講義</li> <li>第5、6限 種付け理論：雌生殖器等の構造、精子が卵子と受精に至るまでの移動、受精機能獲得</li> <li>第7、8限 種付け理論：種付けの適期、精子の注入、種付け開始月齢</li> <li>第9、10限 精子生理：精子の構造と生理機能</li> <li>第11、12限 精子生理：精子の構造と生理機能</li> <li>第13、14限 人工授精：配偶子(精子、卵子)の形成、牛の性周期、性ホルモンの作用、発情徴候、異常発情</li> <li>第15、16限 人工授精：受精、受胎、繁殖成績向上に向けた飼養管理方法</li> </ul> </li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科成績評価要領にもとづき評価する。</li> </ul>		
使用教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家畜人工授精講習会テキスト(社団法人日本家畜人工授精師協会)</li> <li>・担当講師が作成した資料</li> </ul>		

令和7年度 三重県農業大学校カリキュラム(科目一覧)

区分	科目名	略称	学年	ページ番号		
教養	必須	キャリアデザイン	キャ	1年生	P.12	
		くらしと法律	法律	1年生	P.13	
		くらしと経済	経済	1年生	P.14	
		統計学	統計	1年生	P.15	
		情報処理	情報	1年生	P.16	
		英語	英語	1年生	P.17	
		現代社会と文化	現社	1年生	P.18	
		農業基礎	基礎	1年生	P.19	
			体育	体育	1, 2年生	P.20
専門	必須	農業経営	経営	2年生、一年課程	P.21	
		農業簿記	簿記	1年生、一年課程	P.22	
		農業政策	政策	1年生、一年課程(選択)	P.23	
		農業生産工程管理	GAP	1年生、一年課程	P.24	
		農産物マーケティング	マーケ	2年生、一年課程	P.25	
		作物概論	稲作	1年生	P.26	
		作物概論	茶業	1年生		
		園芸概論	野菜	1年生		
		園芸概論	花き	1年生	P.27	
		園芸概論	果樹	1年生		
		畜産概論	畜産	1年生		
		植物生理	植生	1年生	P.29	
		植物育種	育種	2年生	P.30	
		環境保全と農業	環境	1年生、一年課程	P.31	
		作物保護	保護	1年生、一年課程	P.32	
		土壌肥料	土肥	1年生、一年課程	P.33	
		農業情勢	情勢	2年生、一年課程(選択)	P.34	
		農業気象学	気象	2年生	P.35	
	農業機械論	機械	1年生	P.36		
	スマート農業概論	スマート	1年生、一年課程(選択)	P.37		
	6次産業化	6次	2年生、一年課程(選択)	P.38		
	海外等農業先進地研修		2年生	P.39		
	選択A	有機農業	有機	2年生、一年課程	P.40	
		農業と福祉	福祉	1年生、一年課程	P.41	
		農産加工	加工	2年生、一年課程	P.42	
		土壌診断	土診	1年生、一年課程	P.43	
		コンピューター演習	C演	2年生	P.44	
		フラワーデザイン	フラワー	1年生	P.45	
		農業機械・施設整備	整備	2年生、一年課程	P.46	
		選択B	大特(農耕用)	※	1, 2年生、一年課程	P.47
			けん引(農耕用)	※	1, 2年生、一年課程	P.48
			フォークリフト運転技能	※	1, 2年生、一年課程	P.49
	毒物・劇物		毒劇	1年生、一年課程	P.50	
危険物	危険		1年生、一年課程	P.51		
簿記会計	会計		1年生、一年課程	P.52		
溶接(ガス、アーク)	※		1, 2年生、一年課程	P.53		
玉掛け技能	※		1, 2年生、一年課程	P.54		
GAP指導員	※	1, 2年生、一年課程	P.55			
選択	農業経営力養成講座	※	一年課程	P.56		
専攻	実習	専攻実習	実習	1, 2年生、一年課程	P.57	
		産地実習	産地実習	1, 2年生、一年課程	P.58	
		農家実習	—	1, 2年生、一年課程	P.59	
		専攻実験	(実習内)	2年生	P.60	
	演習	課題解決演習	P	2年生、一年課程	P.61	
		卒業論文	卒論	2年生	P.62	
	講義	専攻1	専1	1年生、一年課程	水田作:P.63~P.69 茶業 :P.70~P.73 野菜 :P.74~P.77 花き :P.78~P.83 果樹 :P.84~P.87 畜産 :P.88~P.94	
		専攻2	専2	1年生、一年課程		
		専攻3	専3	1年生、一年課程		
		専攻4	専4	1年生、一年課程		
		専攻5	専5	1年生、一年課程		
		専攻6	専6	2年生、一年課程		
		専攻7	専7	2年生、一年課程		
		専攻8	専8	2年生、一年課程		
専攻9		専9	2年生、一年課程			
専攻10		専10	2年生、一年課程			

※予定表不掲載

- 選択B 大特
- 選択B けん引
- 選択B フォークリフト運転技能
- 選択B 溶接(ガス、アーク)
- 選択B 玉掛け技能
- 選択B GAP指導員
- 農業経営力養成講座

日	4月				特別行事
	1年生	2年生	一年課程	特別行事	
1 火					
2 水					
3 木					
4 金					
5 土					
6 日					
7 月					
8 火					
9 水					
10 木					
11 金					
12 土					
13 日					
14 月					
15 火					
16 水					
17 木					
18 金					
19 土					
20 日					
21 月					
22 火					
23 水					
24 木					
25 金					
26 土					
27 日					
28 月					
29 火					
30 水					

日	5月				特別行事
	1年生	2年生	一年課程	特別行事	
1 木					
2 金					
3 土					
4 日					
5 月					
6 火					
7 水					
8 木					
9 金					
10 土					
11 日					
12 月					
13 火					
14 水					
15 木					
16 金					
17 土					
18 日					
19 月					
20 火					
21 水					
22 木					
23 金					
24 土					
25 日					
26 月					
27 火					
28 水					
29 木					
30 金					
31 土					

日	6月				特別行事
	1年生	2年生	一年課程	特別行事	
1 日					
2 月					
3 火					
4 水					
5 木					
6 金					
7 土					
8 日					
9 月					
10 火					
11 水					
12 木					
13 金					
14 土					
15 日					
16 月					
17 火					
18 水					
19 木					
20 金					
21 土					
22 日					
23 月					
24 火					
25 水					
26 木					
27 金					
28 土					
29 日					
30 月					





日	3月					特別行事
	曜日	1年生	2年生	1年課程	一年課程	
1	日	/	/	/	/	
2	月	実習	実習	実習	実習	
3	火	実習	実習	実習	実習	
4	水	実習	実習	実習	実習	
5	木	実習	実習	実習	実習	
6	金	実習	実習	実習	実習	
7	土	/	/	/	/	
8	日	/	/	/	/	
9	月	実習	実習	実習	実習	
10	火	実習	実習	実習	実習	
11	水	実習	実習	実習	実習	
12	木	実習	実習	実習	実習	
13	金	実習	実習	実習	実習	
14	土	/	/	/	/	
15	日	/	/	/	/	
16	月	実習	実習	実習	実習	
17	火	実習	実習	実習	実習	
18	水	実習	実習	実習	実習	
19	木	実習	実習	実習	実習	
20	金	/	/	/	/	
21	土	/	/	/	/	
22	日	/	/	/	/	
23	月	/	/	/	/	
24	火	/	/	/	/	
25	水	/	/	/	/	
26	木	/	/	/	/	
27	金	/	/	/	/	
28	土	/	/	/	/	
29	日	/	/	/	/	
30	月	/	/	/	/	
31	火	/	/	/	/	

日	2月					特別行事
	曜日	1年生	2年生	1年課程	一年課程	
1	日	/	/	/	/	
2	月	実習	実習	実習	実習	
3	火	実習	実習	実習	実習	
4	水	実習	実習	実習	実習	
5	木	実習	実習	実習	実習	
6	金	実習	実習	実習	実習	
7	土	/	/	/	/	
8	日	/	/	/	/	
9	月	実習	実習	実習	実習	
10	火	実習	実習	実習	実習	
11	水	実習	実習	実習	実習	
12	木	実習	実習	実習	実習	
13	金	実習	実習	実習	実習	
14	土	/	/	/	/	
15	日	/	/	/	/	
16	月	実習	実習	実習	実習	
17	火	実習	実習	実習	実習	
18	水	実習	実習	実習	実習	
19	木	実習	実習	実習	実習	
20	金	実習	実習	実習	実習	
21	土	/	/	/	/	
22	日	/	/	/	/	
23	月	/	/	/	/	
24	火	実習	実習	実習	実習	
25	水	実習	実習	実習	実習	
26	木	実習	実習	実習	実習	
27	金	実習	実習	実習	実習	
28	土	/	/	/	/	

日	1月					特別行事
	曜日	1年生	2年生	1年課程	一年課程	
1	木	/	/	/	/	
2	金	/	/	/	/	
3	土	/	/	/	/	
4	日	/	/	/	/	
5	月	/	/	/	/	
6	火	実習	実習	実習	実習	
7	水	実習	実習	実習	実習	
8	木	実習	実習	実習	実習	
9	金	実習	実習	実習	実習	
10	土	/	/	/	/	
11	日	/	/	/	/	
12	月	/	/	/	/	
13	火	実習	実習	実習	実習	
14	水	実習	実習	実習	実習	
15	木	実習	実習	実習	実習	
16	金	実習	実習	実習	実習	
17	土	/	/	/	/	
18	日	/	/	/	/	
19	月	実習	実習	実習	実習	
20	火	実習	実習	実習	実習	
21	水	実習	実習	実習	実習	
22	木	実習	実習	実習	実習	
23	金	実習	実習	実習	実習	
24	土	/	/	/	/	
25	日	/	/	/	/	
26	月	実習	実習	実習	実習	
27	火	実習	実習	実習	実習	
28	水	実習	実習	実習	実習	
29	木	実習	実習	実習	実習	
30	金	実習	実習	実習	実習	
31	土	/	/	/	/	

工 実践ほ場栽培計画

令和7年度 実践ほ場栽培計画(水田作専攻コース)

水田	作物(品種)	作付規模	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
No. 1	水稲(コシヒカリ)	32a				○—▲	—	—	—	—	—	—	—	—	水稲単作
No. 2	水稲(夢ごち)	29a				○—▲	—	—	—	—	—	—	—	—	水稲単作
No. 3	水稲(コシヒカリ)A※	15a				○—▲	—	—	—	—	—	—	—	—	水稲単作
No. 4	小麦 (あやひかり)	29a					—	—	—	—	—	—	○	—	水田転換畑
	豆類 (小豆、くろこじろう、丹波黒、 フクユタカ)							○	—	—	—	—	—	□	
No. 5	水稲(みえのゆめ)	39a				○—▲	—	—	—	—	—	—	—	—	水稲単作
No. 6	水稲(コシヒカリ)	47a				○—▲	—	—	—	—	—	—	—	—	水稲単作
No. 7	水稲(コシヒカリ)	27a				○—▲	—	—	—	—	—	—	—	—	水稲・露地野菜体系
	露地野菜 (キャベツ・ブロッコリー)						—	—	—	○	—	—	—	□	
No. 8	露地野菜 (春キャベツ)	8a					—	—	—	—	—	—	—	—	水稲・露地野菜体系
	水稲(夢ごち)						○—▲	—	—	—	—	—	—	—	
No. 9	水稲(コシヒカリ)	30a				○—▲	—	—	—	—	—	—	—	—	水稲単作
No. 10	水稲(あゆみもち)	36a				○—▲	—	—	—	—	—	—	—	—	水稲単作
No. 11	水稲(コシヒカリ)	30a				○—▲	—	—	—	—	—	—	—	—	水稲単作
No. 12	水稲(コシヒカリ)	25a				○—▲	—	—	—	—	—	—	—	—	水稲単作

※A: 栽培期間中、化学肥料・化学農薬不使用の栽培を行う。 ○ 播種 ▲ 移植、定植 □ 収穫

# 令和7年度 実践ほ場栽培計画(茶業専攻コース)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
栽			化粧ならし		一番茶摘採	二番茶摘採				秋番茶摘採	秋整枝	
培			茶苗定植	追肥、被覆	整枝、追肥、防除、挿し木	剪枝、追肥、防除	土壤改良、秋肥				茶園整備、定植準備等	
加					一番茶製造	二番茶製造				秋番茶製造		
工			ティーパック製造・小売りパッケージング			小売りパッケージング				小売りパッケージング		
利					荒茶再製	荒茶再製					荒茶再製	
用				工場、製茶機械等の整備・点検掃除								

# 令和7年度 実践ほ場栽培計画(野菜専攻コース)

品 目	作付規模	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
半促成トマト(養液土耕)	ガラス室	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	○ ×	—	▲
抑制キュウリ(養液土耕) (13, 15, 17号温室)	170㎡ 3棟	(抑制トマト)	○ ×	▲	—	—	—	—	—	—	—	—	—
半促成キュウリ	ガラス室	—	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	○ — ×	—	▲
抑制トマト	170㎡ 3棟	(抑制キュウリ)	○ ×	▲	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(7, 9, 11号温室)	ガラス室	—	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	○ —	—	▲
半促成トマト(ロックウール栽培)	1棟	(抑制トマト)	○ ×	▲	—	—	—	—	—	—	—	—	—
抑制トマト(ロックウール栽培)	165㎡	(3号温室)休止中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
抑制キュウリ(水耕栽培)	ガラス室	—	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□	○ ×	—	▲
半促成キュウリ(水耕栽培)	1棟	(1号温室)休止中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
半促成キュウリ(水耕栽培)	165㎡	育苗用温室	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(1号温室)休止中	ガラス室	(5号温室)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
育苗用温室	190㎡	(キュウリ)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(5号温室)	150㎡	(秋野菜類:葉茎菜)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(旧9号温室)*	パイプハウス	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ポット促成イチゴ	165㎡ 4棟	□□□□	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
高設ベンチ栽培	露地	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
夏まき冬どりキャベツ・ブロッコリー	12a	▲~▲	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
夏まき冬どり白菜・大根・人参	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
カボチャ、スイカ、ナス、ピーマン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

● 親株定植    ○ 播種    × 接木    ▲ 鉢受け    ▲ 定植    □ 収穫    ◇ ハウスビニール被覆

# 令和7年度 実践ほ場栽培計画(花き専攻コース)

品目	作付規模	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
シケラメン他 鉢花 底面給水栽培 (2号温室)	ガラス室		△鉢上げ									○	
バラ R・W耕 (4号温室)	165㎡ ガラス室	1年目	▲										
花壇苗物類	165㎡ ガラス室	○	△△	□	□□□□□□	○	○○△△△						○
(8号温室) 切花	165㎡ ガラス室	(ストック) (スターチス)				○	○	▲					▲
(10号温室) 花壇苗物類	170㎡ ガラス室	○	△△	□	□□□□□□□□□□□□	□	□□□□□□□□□□□□						○
(12号温室) 花壇苗物類	170㎡ 網室 200㎡									○	○○△△△		
観葉植物類 鉢物	ガラス室	□□□□□□□□□□	○	△	□□□□□□					◇			
(14号温室)	170㎡	□□□□□□□□□□□□								○	△	△	□□□□
観葉植物類・洋ラン (16号温室)	ガラス室 170㎡	(ベゴニア)	◇	△	□								
ハボタン (露地ハウス)	150㎡	(スパティフィラム)				△	□					△株分け	
											○	△	□□□□□□

○播種 ▲定植 ▼剪定 ▲鉢上げ ◇挿し木 □収穫

# 令和7年度 実践ほ場栽培計画(果樹専攻コース)

品 種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ナ シ	剪定・誘引	開花・受粉	摘果	袋かけ	誘引	摘果	収穫	収穫	収穫	土壤改良・施肥	剪定	
洋ナシ	剪定・誘引	開花・受粉	摘果	袋かけ	摘果	摘果	予冷・追熟	収穫	収穫	土壤改良・施肥	剪定	
カ キ	剪定	摘書	開花	摘果	摘果	摘果	摘果	収穫	収穫	土壤改良・施肥	剪定	
ブドウ	剪定・誘引	芽かき	誘引・花切り	開花	摘房・摘粒・袋かけ	摘房・摘粒・袋かけ	新梢管理	収穫	収穫	土壤改良・施肥	剪定	
温州ミカン	剪定	開花	摘果	摘果	摘果	摘果	摘果	摘果	摘果	土壤改良・施肥	剪定	
雑柑類他	収穫・貯蔵	開花	開花	開花	開花	開花	開花	摘果	摘果	土壤改良・施肥	剪定	
ウ メ	開花	開花	開花	開花	開花	開花	開花	開花	開花	土壤改良・施肥	剪定	
リンゴ	剪定・誘引	開花・受粉	摘果	袋かけ	摘果	摘果	加工	収穫	収穫	土壤改良・施肥	剪定	
ク リ	剪定	開花	開花	開花	開花	開花	開花	開花	開花	収穫・温湯消毒・貯蔵	剪定	
モモ	剪定・誘引	開花	摘果	袋かけ	摘果	摘果	摘果	摘果	摘果	土壤改良・施肥	剪定	

# 令和7年度 水田作専攻 ほ場配置図

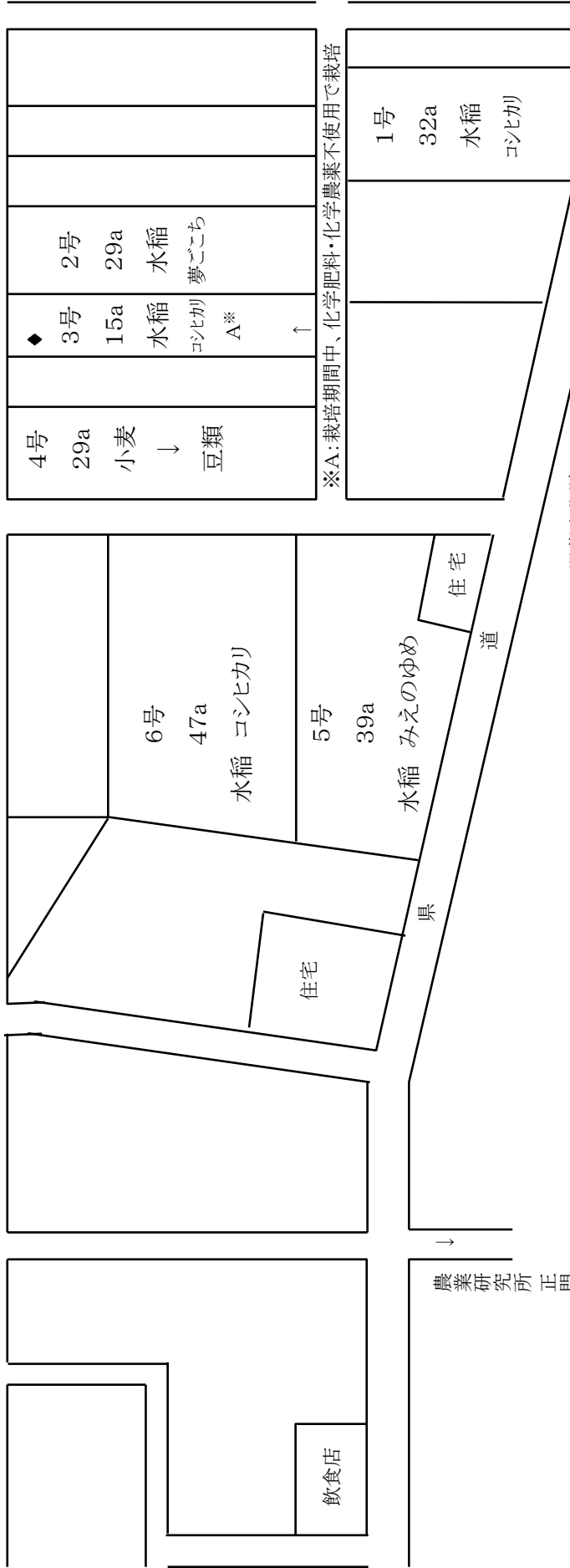


◆: 高圧線の鉄塔



10号 36a 水稻 あゆみもち	9号 30a 水稻 コシヒカリ	11号 30a 水稻 コシヒカリ	12号 25a 水稻 コシヒカリ
---------------------------	--------------------------	---------------------------	---------------------------

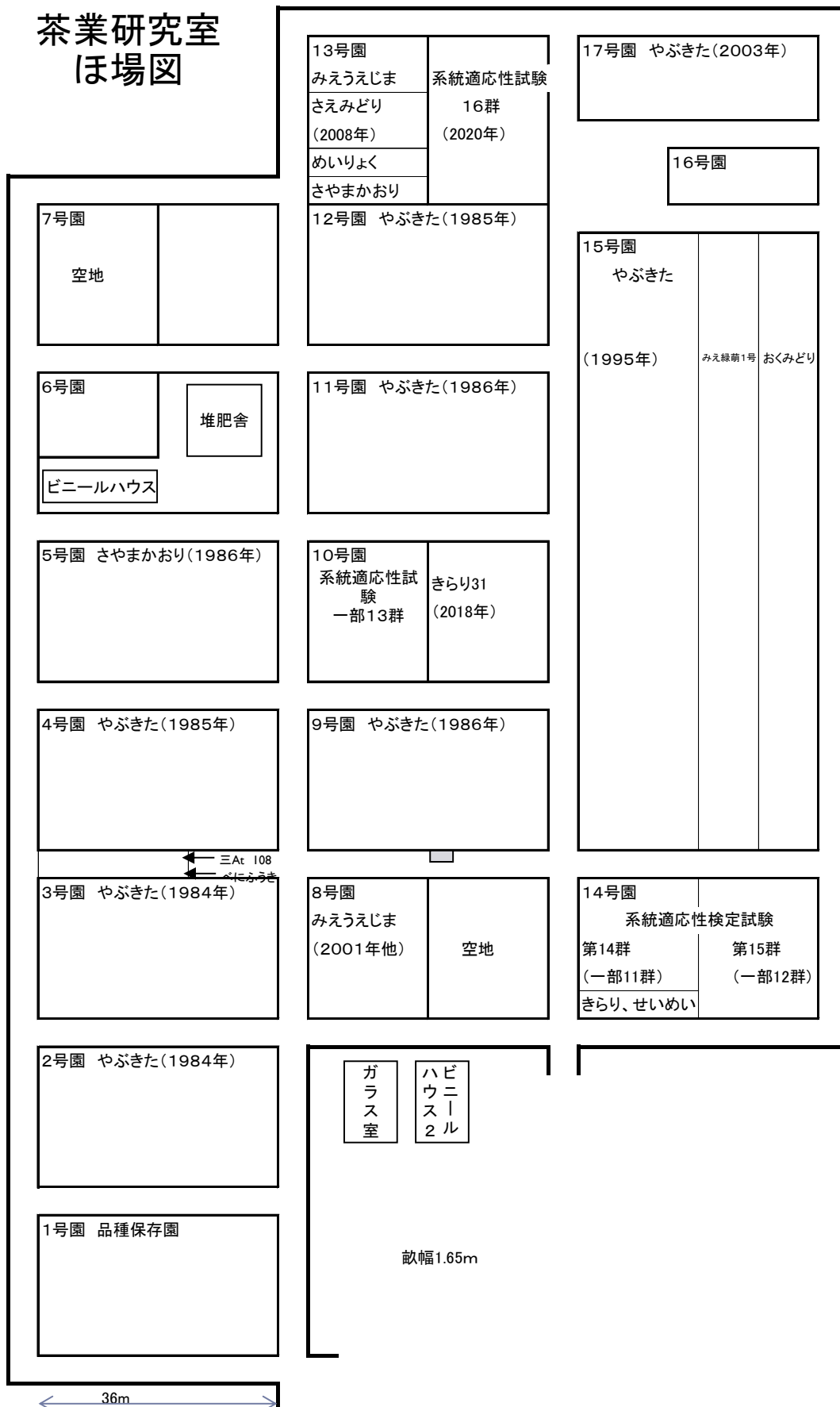
7号 27a 水稻コシヒカリ →露地野菜	8号 8a 水稻 夢ごこち
-------------------------------	------------------------



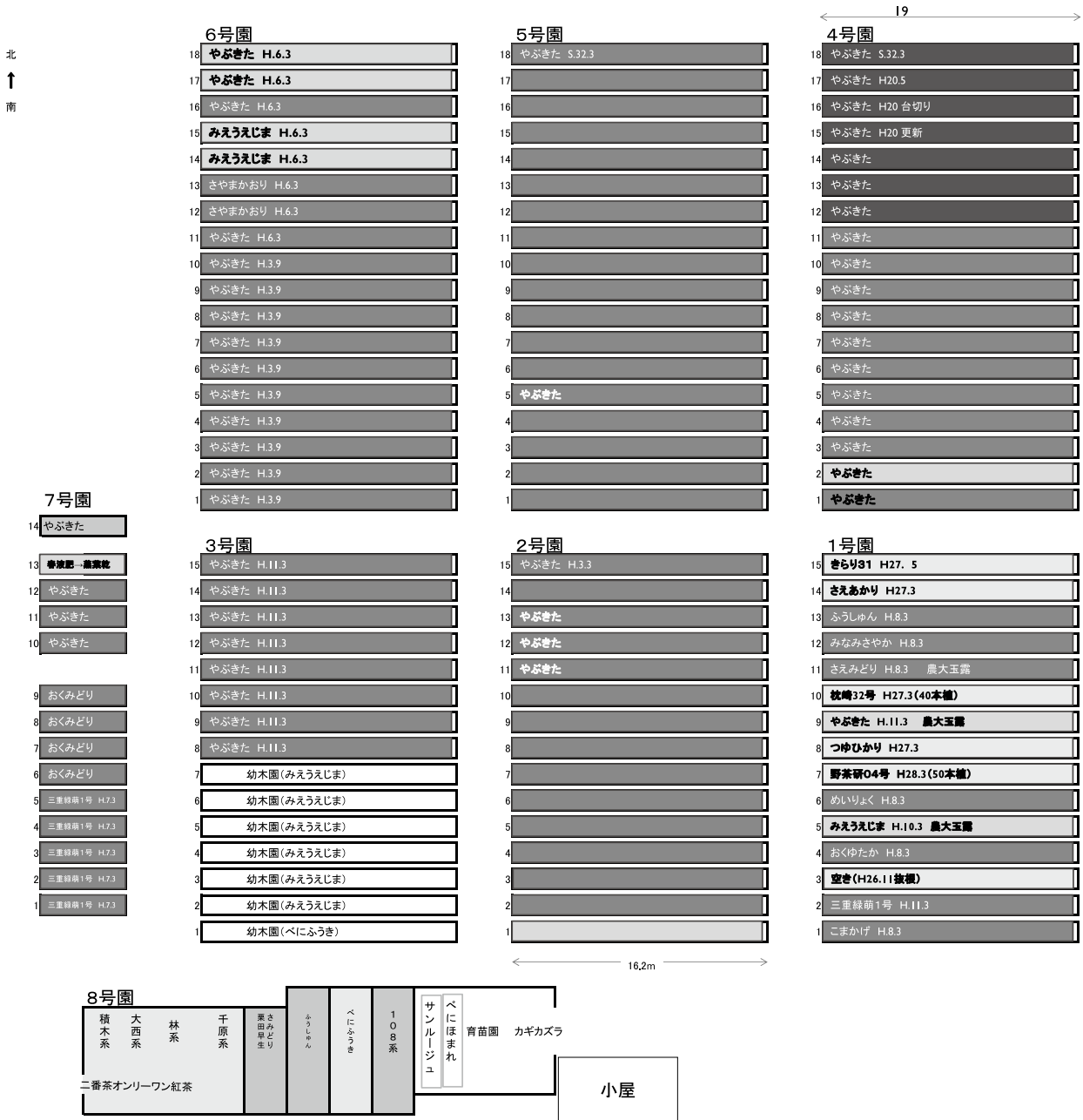
栽培品種は計画変更する場合があります。

# 令和7年度 茶業専攻コースほ場配置図

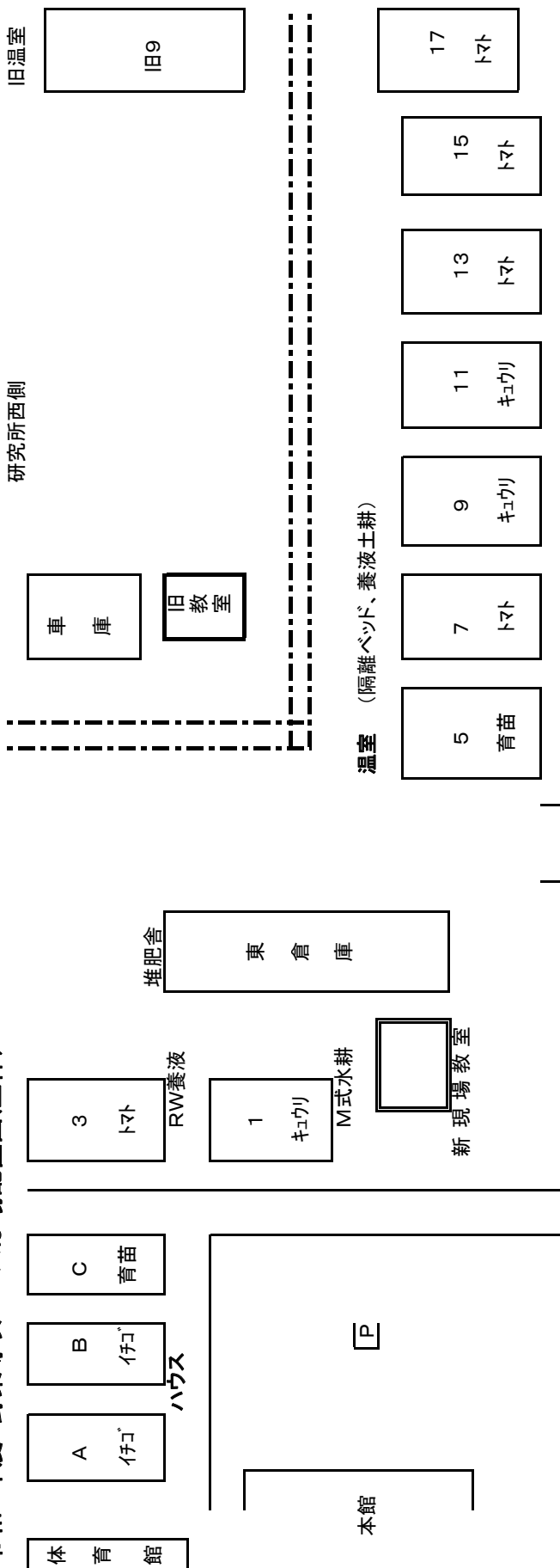
## 茶業研究室 ほ場図



# 大台試験地圃場



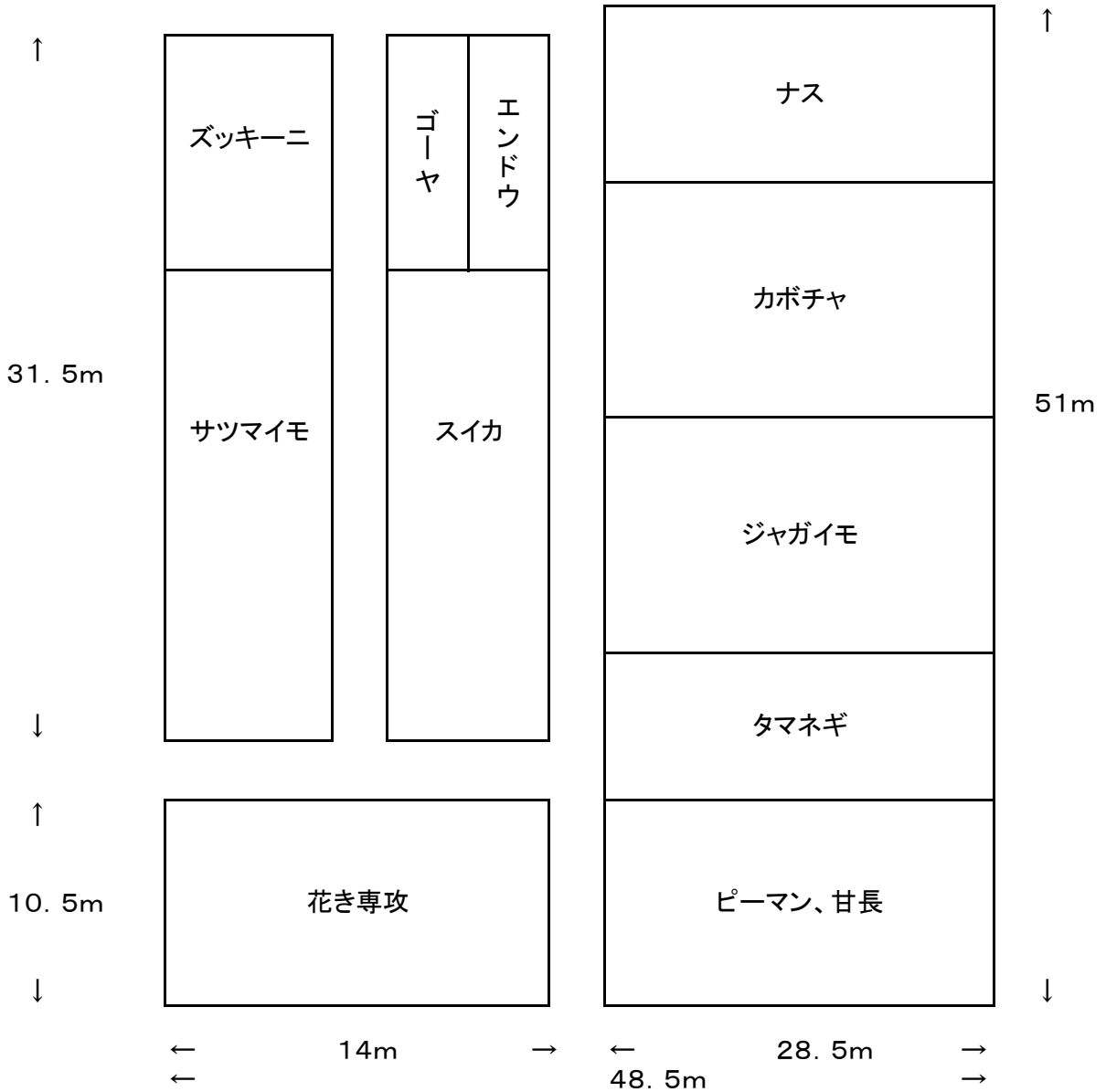
令和7年度 野菜専攻コースほ場配置図(全体)



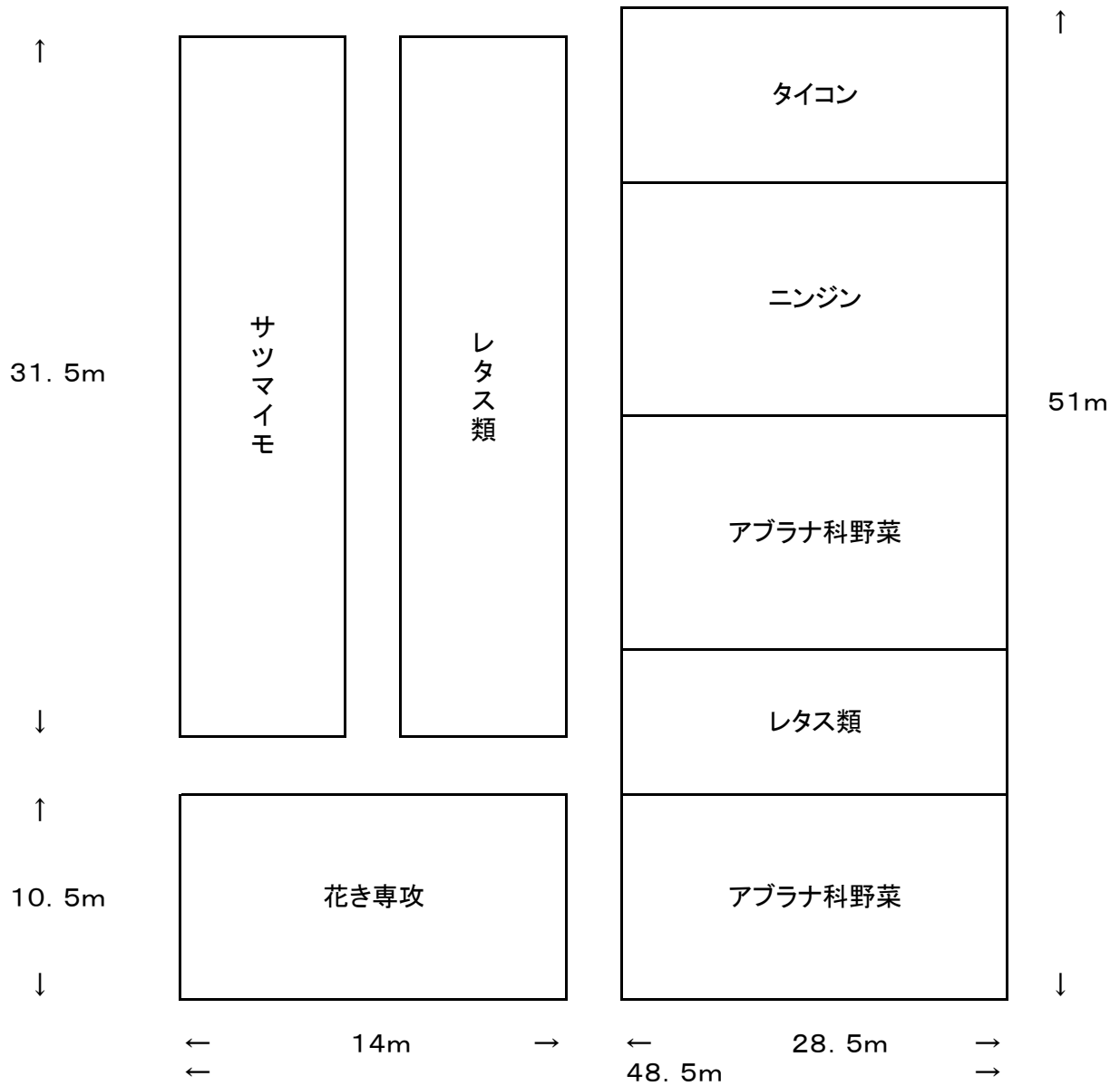
① 温室	No.	作目	面積	栽培様式	メーカー名	品種	作型	定植日 (栽植密度)	収穫始
	1	キュウリ	170㎡	養液(水耕)	M式「さか」	光華	半促成	3/中	4下~6上
	3	トマト	170㎡	養液(ロックウール耕)	グロダン	ごほうび	半促成	3/中	5上~
	5	野菜類	190㎡	育苗用 移動ベンチ					
	7	トマト	170㎡	土耕、隔離ベッド	全農	ごほうび	半促成	3/下	5中~7上
	9	トマト	170㎡	土耕、隔離ベッド	全農	フルテイカ	半促成	3/下	5中~7上
	11	キュウリ	170㎡	土耕、隔離ベッド	全農	兼備2号	半促成	3/下	4下~7上
	13	トマト	170㎡	土耕、隔離ベッド	全農	CF桃太郎はるか	半促成	3/中	5上~7上
	15	キュウリ	170㎡	土耕、隔離ベッド	全農	リスペクト	半促成	3/中	4下~7上
	17	トマト	170㎡	土耕、隔離ベッド	全農	りんか409	半促成	3/中	5上~7上
旧温室	9		165㎡/330㎡						
② ハウス	A	イチゴ(高設)	150㎡	土耕、高設ベンチ	大洋工業	かおり野	ポット促成	9/下	11下~5上
	B	イチゴ(高設)	150㎡	土耕、高設ベンチ	住化農材	かおり野	ポット促成	9/下	11下~5上
	C	イチゴ育苗	150㎡	ポット受け、ベンチ		(親株)			

③ 露地(13a) ナス、カボチャ、ジャガイモ、ダイコン、ニンジン、タマネギ、スイカ、オクラ、ピーマン、ハクサイ、キャベツ、ブロッコリー、レタス等

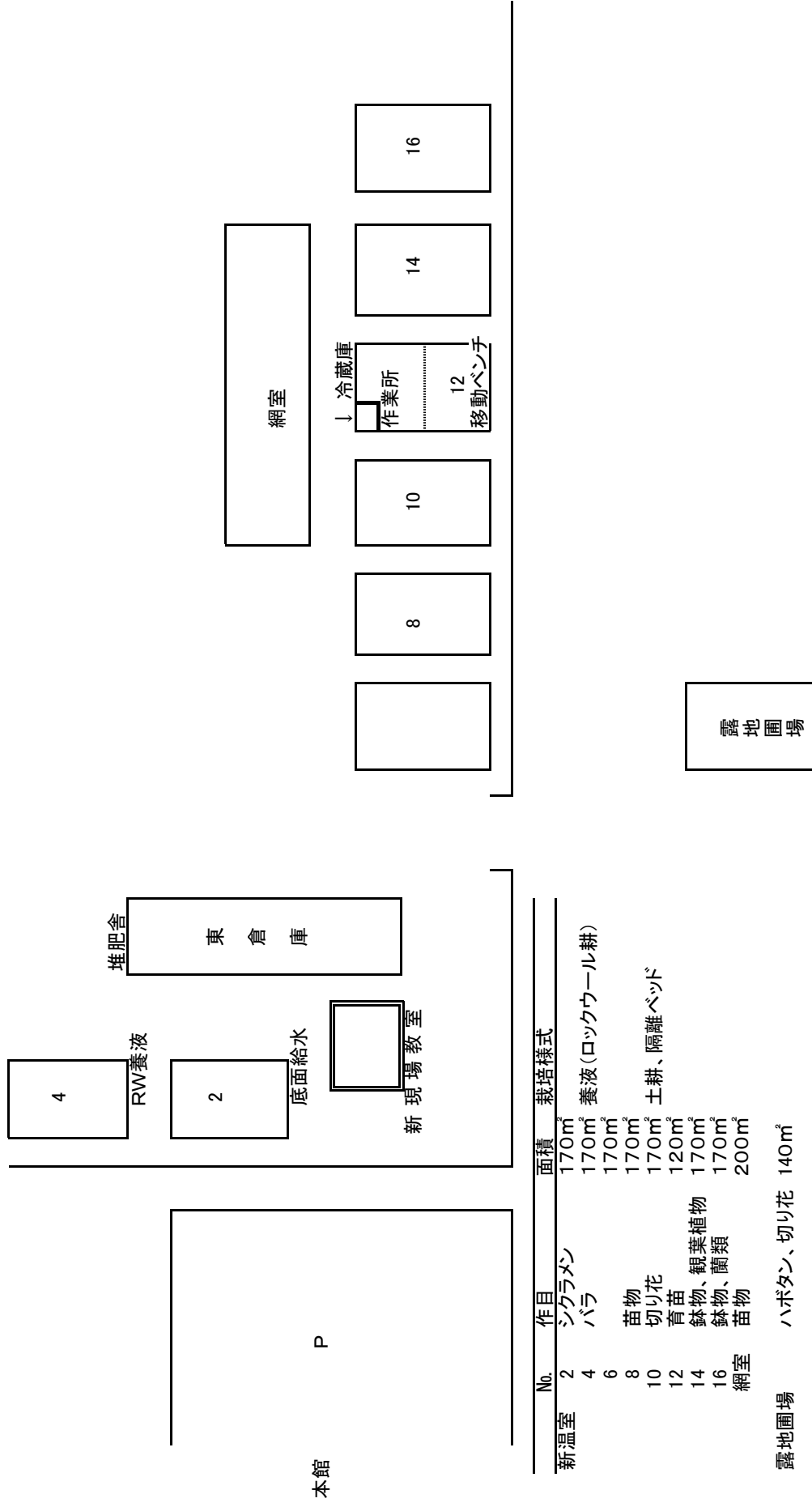
令和7年度 野菜専攻コースほ場配置図(露地作付け(春夏作))



令和7年度 野菜専攻コースほ場配置図(露地作付け(秋冬作))

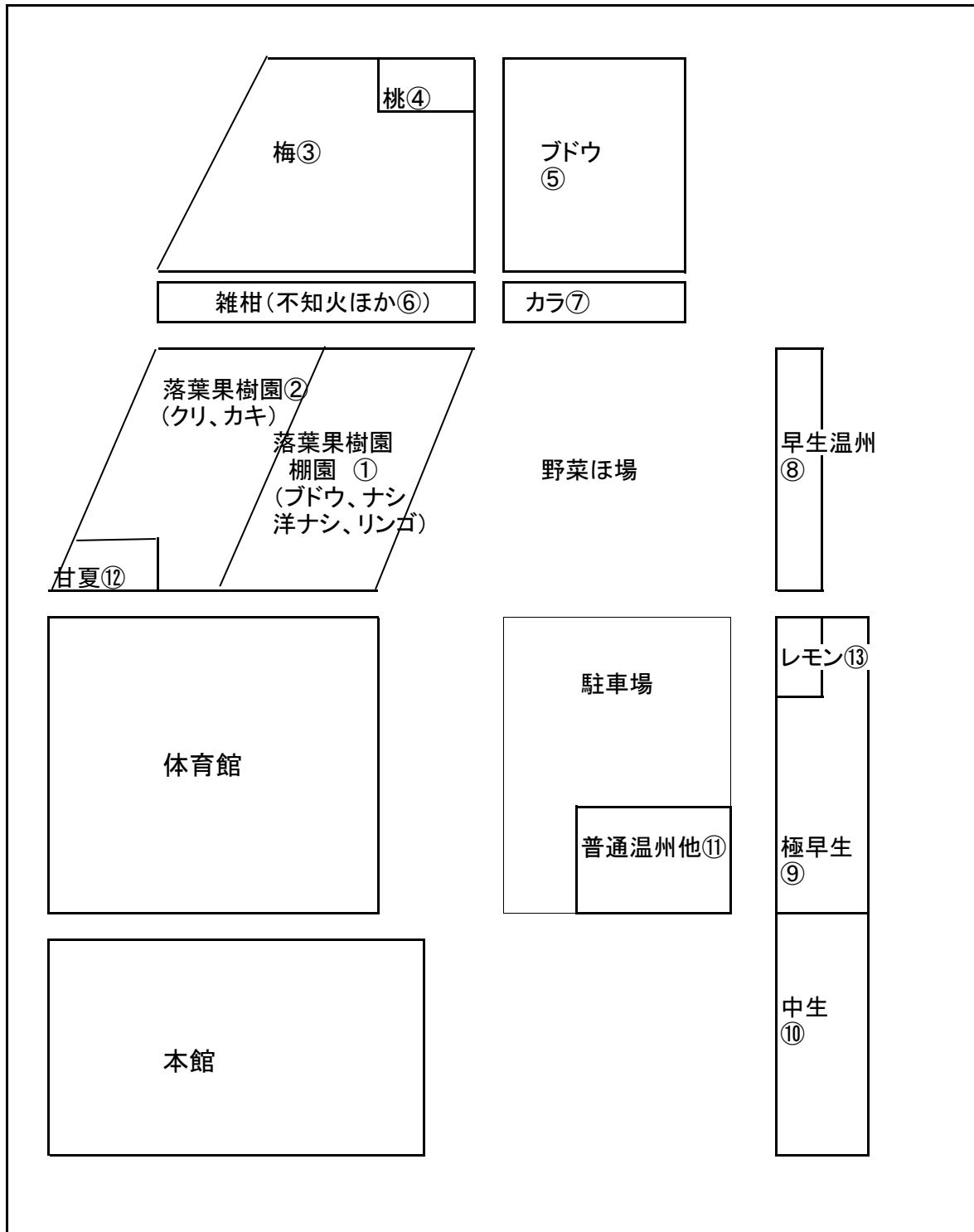


令和7年度 花き専攻コースほ場配置図



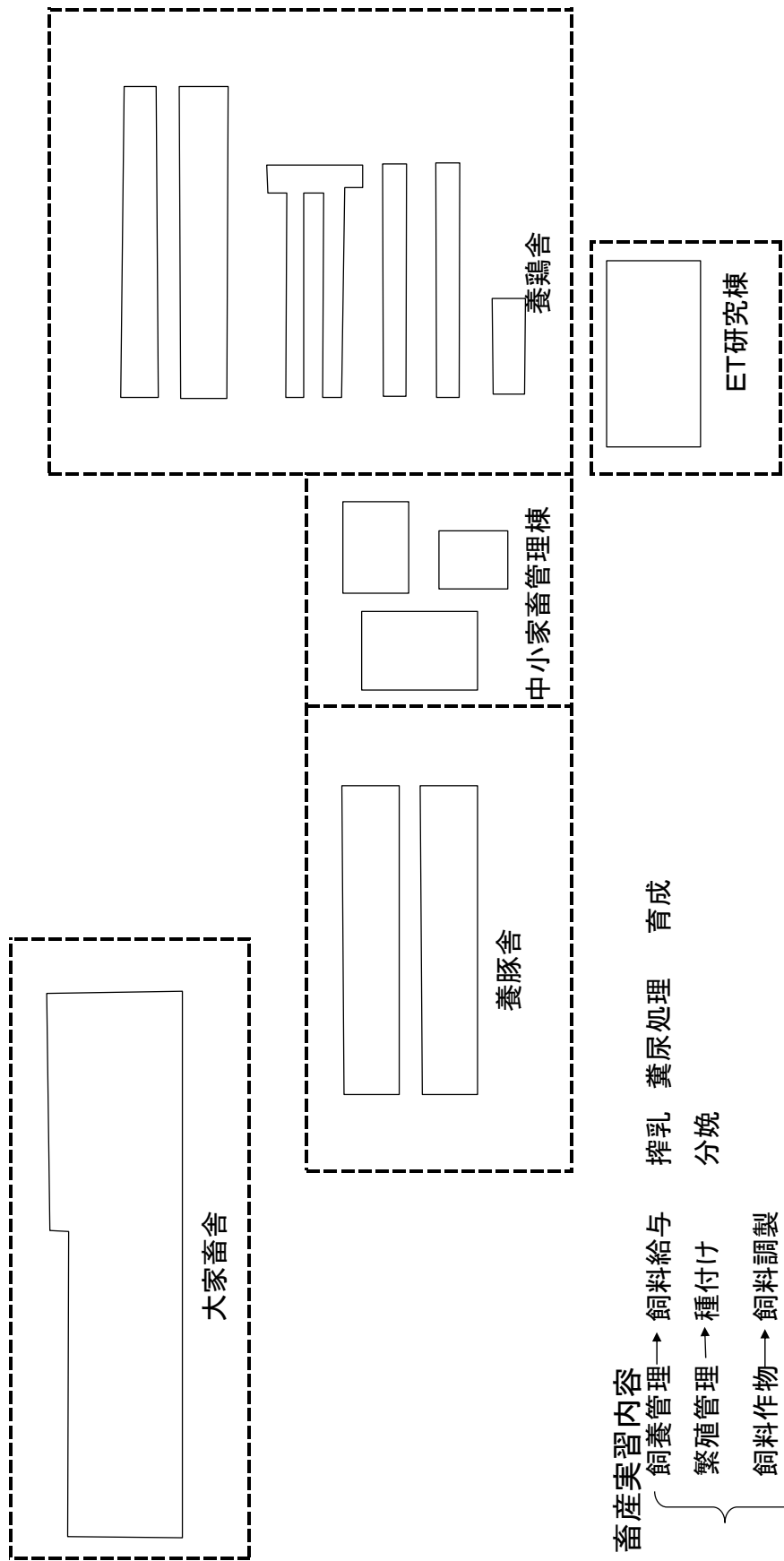
No.	作目	面積	栽培様式
新温室 2	シクラメン	170㎡	
4	バラ	170㎡	養液(ロックウール耕)
6		170㎡	
8	苗物	170㎡	土耕、隔離ベッド
10	切り花	170㎡	
12	育苗	120㎡	
14	鉢物、観葉植物	170㎡	
16	鉢物、蘭類	170㎡	
網室	苗物	200㎡	
露地圃場	ハボタン、切り花	140㎡	

# 令和7年度 三重県農業大学校 果樹園配置図



せとか  
はるみ  
⑭

# 令和7年度 畜産専攻コース実習実施施設配置図(畜産研究所家畜飼育棟)



畜産実習内容  
 飼養管理 → 飼料給与 育成  
 繁殖管理 → 種付け 分娩  
 飼料作物 → 飼料調製

実習場所  
 肉用牛 舍  
 酪農畜舎  
 家畜改良 舍  
 養鶏 舍  
 養豚 舍  
 養鶏舎  
 大家畜舎  
 大家畜舎  
 大家畜舎  
 養鶏舎  
 養豚舎  
 ET研究棟  
 中小家畜管理棟  
 中小家畜管理棟

## 養成科成績評価要領

	三農大規則第5号
	昭和47年 8月22日
改正	昭和53年 5月10日
改正	昭和61年 4月 1日
改正	平成 5年 4月 1日
改正	平成 7年 4月 1日
改正	平成12年 1月 5日
改正	平成23年 2月 3日
改正	平成25年 3月 6日
改正	平成26年 3月17日
改正	平成31年 3月 8日
改正	令和 3年 3月 9日

三重県農業大学校校則第10条に基づく成績の評価は、この要領の定めるところによる。

### 1 評価基準

#### (1) 教養科目・専門科目

講義が終了した時点で筆記試験を行う。但し、レポート等とすることもできる。  
なお、演習科目は出席50%、技能50%で評価する。

#### (2) 専攻科目

講義が終了した時点で筆記試験を行う。  
但し、専攻実習等の評価は次のとおりとする。

##### ア 専攻実習・産地実習・専攻実験

出席50%、態度20%、技能30%で評価する。

##### イ 農家実習

実習講師による評価50%、実習報告書による評価50%とする。

##### ウ 課題解決演習

プロジェクト発表の内容を80%（発表行為50%、審査点30%）、各専攻の評価を20%で評価する。

##### エ 卒業論文

提出論文(本文)の内容を80%、卒業論文発表の内容を20%で評価する。

### 2 筆記試験等受験資格

試験(評価)を受けることができる者は、各科目の履修時間の3/4以上(遅刻等時間も換算)出席した者でなければならない。

但し、専攻実習は、年次毎に9/10以上(遅刻等時間も換算)出席した者を評価対象とする。

### 3 不正行為

受験中、不正行為があった場合は、ただちに答案を回収し、退室を命令する。  
その答案は無効とする。

#### 4 評価・単位認定

- (1) 成績の評価は、1の評価基準に基づき100点法で採点し、優、良、可及び不可の評語をもって次のとおり評価し、優、良及び可を合格とする。

判 定		合 格			不 合 格
評 価	評 価	優	良	可	不 可
	評 点	80点～ 100点	70点～ 79点	60点～ 69点	60点未満

- (2) 卒業論文及び課題研究については、別途定める期日までに提出がない場合、評価対象としない。
- (3) 履修した科目の評価において、合格した科目の単位を認定する。

#### 5 追試験、再試験等

- (1) 追試験：やむを得ない理由で試験を受けることができなかつた者は、学校長に願い出て追試験を受けることができる。追試験は本試験と同等に扱う。  
なお、やむを得ない理由とは、「通学困難時等の授業取扱規程」(第1条)に規定する理由によるものとする。
- (2) 再試験：試験を受け合格しなかつた者は、学校長に願い出て再試験を受けることができる。再試験は原則1回とし、再試験による合格の評価は可とする。
- (3) 追試験願及び再試験願の提出については、担当の教官の裁量によって省略することができる。
- (4) 卒業論文及び課題研究については、別途定める期日までに提出がなかつた場合、(2)及び(3)に準ずる措置を講ずることができる。

#### 6 遅刻、欠席等

30分を超える遅刻、中座及び早退は欠席として扱う。

学校長が特に認めた研修、その他行事へ参加のため、授業又は実習等を受けられない場合は、これを出席として扱い、補習等を行う。

#### 7 進級

進級の要件は、二年課程の1年次において、単位未修得科目が原則として必須科目の2科目以内の者とする。

#### 8 卒業及び修了

- (1) 卒業：二年課程において所定の科目を履修(108単位以上)した者に対して、卒業を認定する。
- (2) 修了：一年課程において所定の科目を履修(53単位以上)した者に対して、修了を認定する。

#### 附 則

##### 1 施行期日

この要領は、令和3年3月31日から施行する。

養成科成績評価要領5の(1)

<b>追 試 験 願</b>		年 月 日
三重県農業大学校長 宛て	学年	席
	氏名	
下記の理由により追試験を受けたいので許可願います。		
記		
1 受験理由：		
2 受験科目：		
3 教務担当確認印		
		以上

養成科成績評価要領5の(2)

<b>再 試 験 願</b>		年 月 日
三重県農業大学校長 宛て	学年	席
	氏名	
下記の理由により再試験を受けたいので許可願います。		
記		
1 受験理由：		
2 受験科目：		
3 教務担当確認印		

#### 4 皇學館大学カリキュラム

(皇學館大学・三重県農業大学校 教育研究交流事業により、三重県農業大学校が皇學館大学に教育プログラムを提供)

##### 1) 「作物栽培学講義」

日程	開催年月日	時限	科目	講義内容	担当教官
1日目	8月 4日(月)	1限	総合	オリエンテーション	教務課
		2限	野菜	先進的な野菜栽培(環境を制御した栽培方法)	教務課・野菜専攻
		3限	野菜	野菜の種類と利用、野菜の生産動向と課題	野菜専攻
		4限		施設野菜の生理・生態と栽培、肥培管理と防除の基本	
		5限		露地野菜の生理・生態と栽培、肥培管理と防除の基本	
2日目	8月 5日(火)	1限	果樹	果樹の種類、生長と生理	果樹専攻
		2限		県内の果樹産地の現状及び栽培管理技術	
		3限	花き	三重県の花き栽培の概要について	花き専攻
		4限		花き栽培、管理作業について	
		5限		総合	
3日目	8月 6日(水)	1限	水田	三重県における水田農業の概要と稲作技術の変遷	水田作専攻
		2限		稲・麦・大豆栽培の基本	
		3限	茶	三重の茶産地の生産概要	茶業専攻
		4限	畜産	三重の畜産の概要	畜産専攻
		5限	総合	農業実習オリエンテーション	教務課

##### 2) 「作物栽培学実習」

日程	開催年月日	時限	科目	実習内容	担当教官
1日目	9月 3日(水)	1限	果樹	ブドウの収穫・調製等	果樹専攻
		2限			
		3限	花き	パンジーの鉢上げ等	花き専攻
		4限			
		5限			
2日目	9月 4日(木)	1限	水田	米の収穫・調製等	水田作専攻
		2限			
		3限			
		4限			
		5限	総合	振り返り及びレポート作成	教務課
3日目	9月 5日(金)	1限	野菜	トマト・イチゴの定植等	野菜専攻
		2限			
		3限			
		4限			
		5限	総合	振り返り及びレポート作成	教務課

## 皇學館大学と三重県農業大学校との間における教育研究交流に関する協定書

皇學館大学（以下「大学」と称する。）と三重県農業大学校（以下「大学校」と称する。）は、教育及び学術研究上の相互の連携・協力の推進に当たり、次のとおり協定を締結する。

### （目的）

第1条 大学と大学校は、それぞれが教育及び学術研究を推進する上で、互いが必要とする分野において連携・協力することによって、地域の人材育成及び地域の課題解決に資することを目的とする。

### （連携・協力事項）

第2条 大学と大学校は、次に掲げる事項について連携・協力するものとする。

- (1) 講義、実習及び共同研究等の実施とこれに伴う、学生、教員の交流
- (2) 大学と大学校が相互に関心を有する分野における人材養成及び人材交流
- (3) その他大学と大学校が共に、本協定の目的を達成するために必要と認められた事項

### （努力・義務）

第3条 本協定に基づく連携・協力事項を実施する上で、必要な事項については、その都度両者で誠実に協議調整し、実施するものとする。

### （有効期間）

第4条 本協定の有効期間は、大学と大学校の代表者が署名をした日から4年間とする。ただし、期間満了の6ヶ月前までにいずれか一方又は両者から解除の申し出がない場合は、さらに1年間延長するものとし、以後についても同様とする。

### （その他）

第5条 本協定に定める事項に疑義を生じた場合若しくは本協定に定めのない事項が生じた場合は、大学と大学校両者で協議の上処理するものとする。

本協定の締結を証するため、本協定書2通を作成し、各々1通を保管する。

平成 25 年 12 月 24 日

平成 25 年 12 月 24 日

皇學館大学

三重県農業大学校

学長

清水 潔



校長

杉谷 三 朗



# 教 育 計 画

令和7年4月発行

三重県農業大学校

〒515-2316

三重県松阪市嬉野川北町530

電話：0598-42-1260

FAX：0598-42-5835

HP：http://www.pref.mie.lg.jp/nodai/hp/index.htm



GREEN PRINTING JFPI  
P-B10216

この印刷製品は、環境に配慮した  
資材と工場で製造されています。